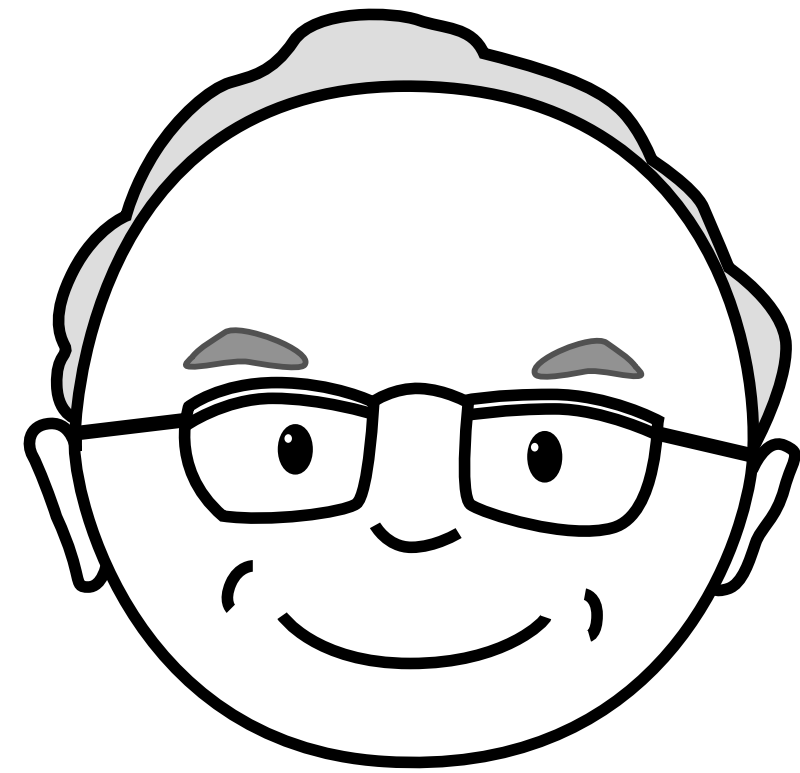
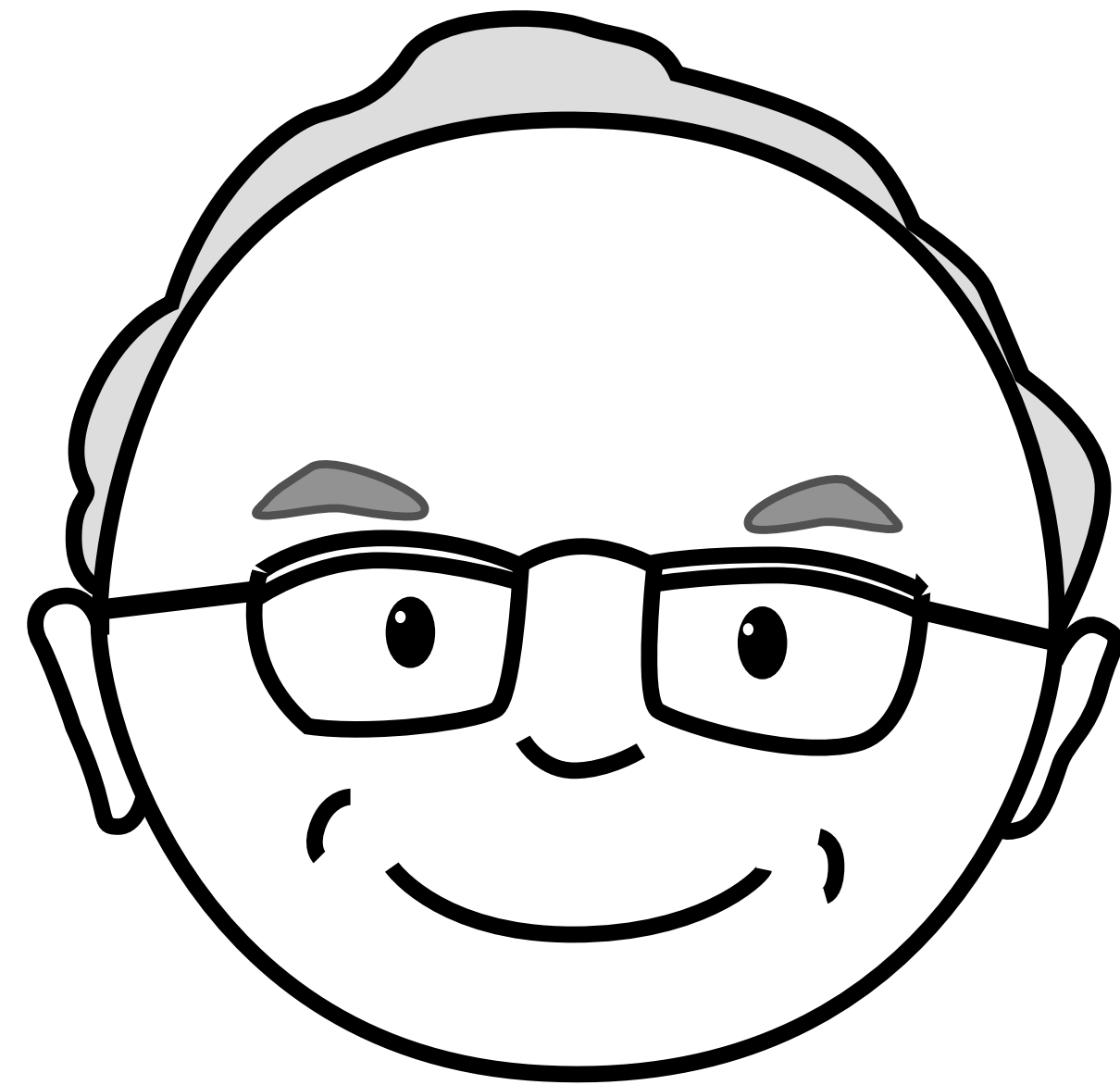




「生活」 支援を考える

— 支援ありきではない生活支援 —



この顔は？

谷中輝雄先生 (1939-2012)

1970年代から精神障害のある人の
地域生活を実践してきたやどかり
の里の創設者。精神障害者の生活
支援を提唱。研究者・教育者とし
て大学でも教鞭を取り、多くの後
進を育てた。

1.支援とサービスについて 考えてみよう

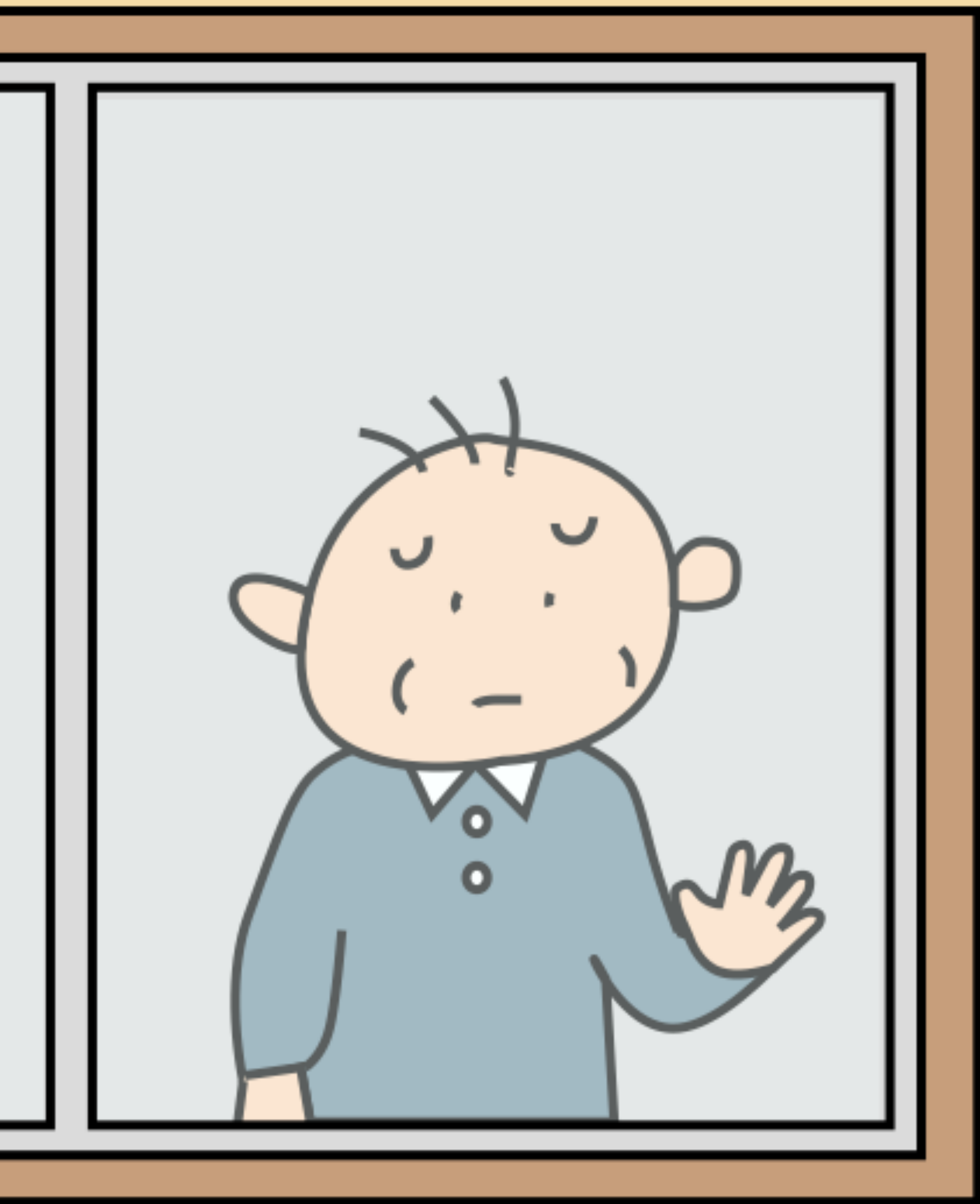
事例 1 : Aさん

病

院

精神科病院に長期在院中の
Aさん





Aさん（45歳,男性）

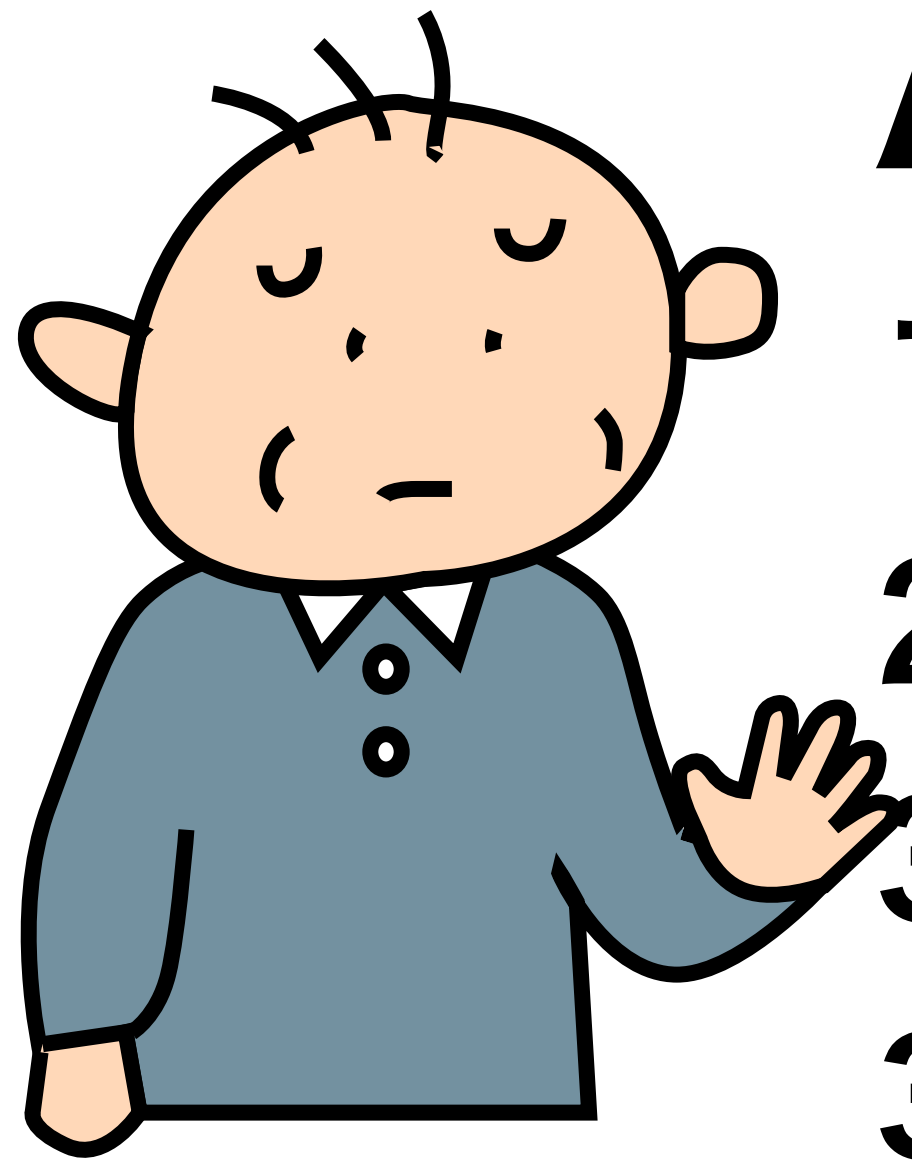
18歳で統合失調症を発症。

20代までは短期間の入退院を繰り返していたが、兄が結婚して両親と同居したことから、30代からは自宅での受け入れが困難になる。35歳の時に家族とのトラブルを起こし、以後10年間入院を続けている。

単身生活の経験はなく、就労も短期のアルバイト程度のみ。

Aさんはどう支援する？

ONLINE



18歳：統合失調症を発症

20代：短期間の入退院を繰り返す

30代：自宅の受け入れが困難

35歳：家族とトラブル、以後10年間入院を続けている。

単身生活：経験なし

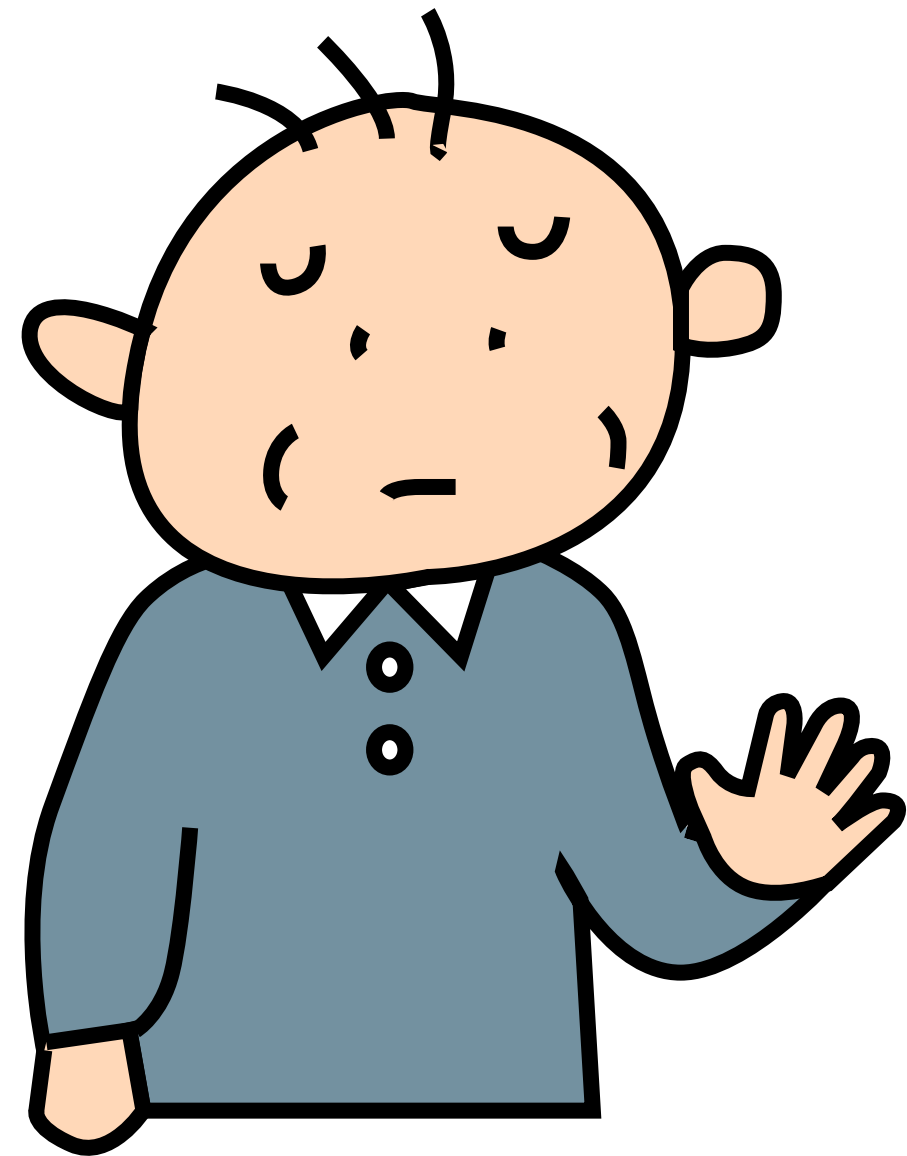
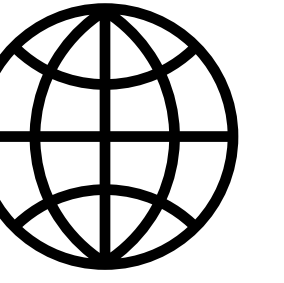
就労経験：短期バイト



あと20秒

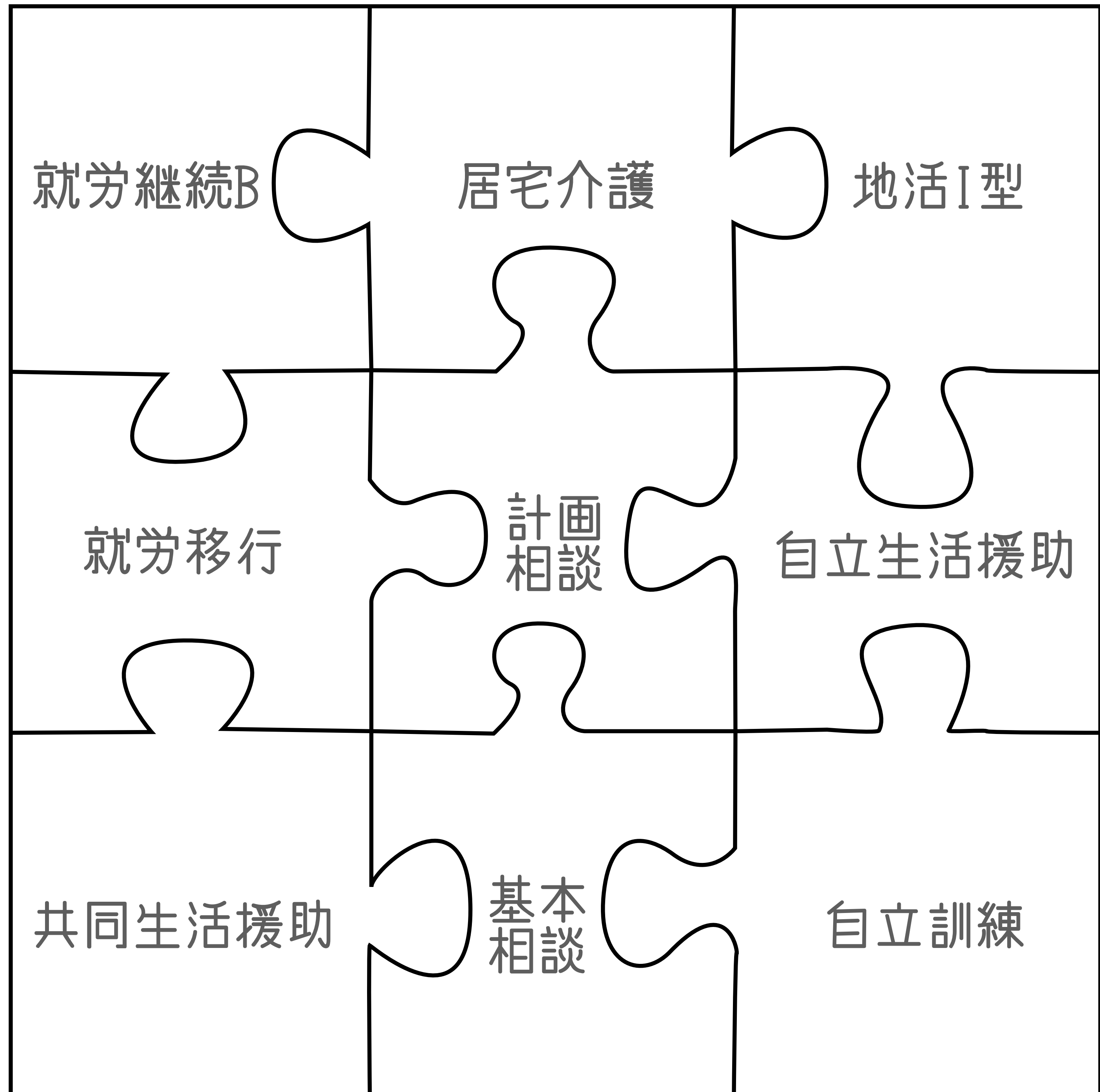
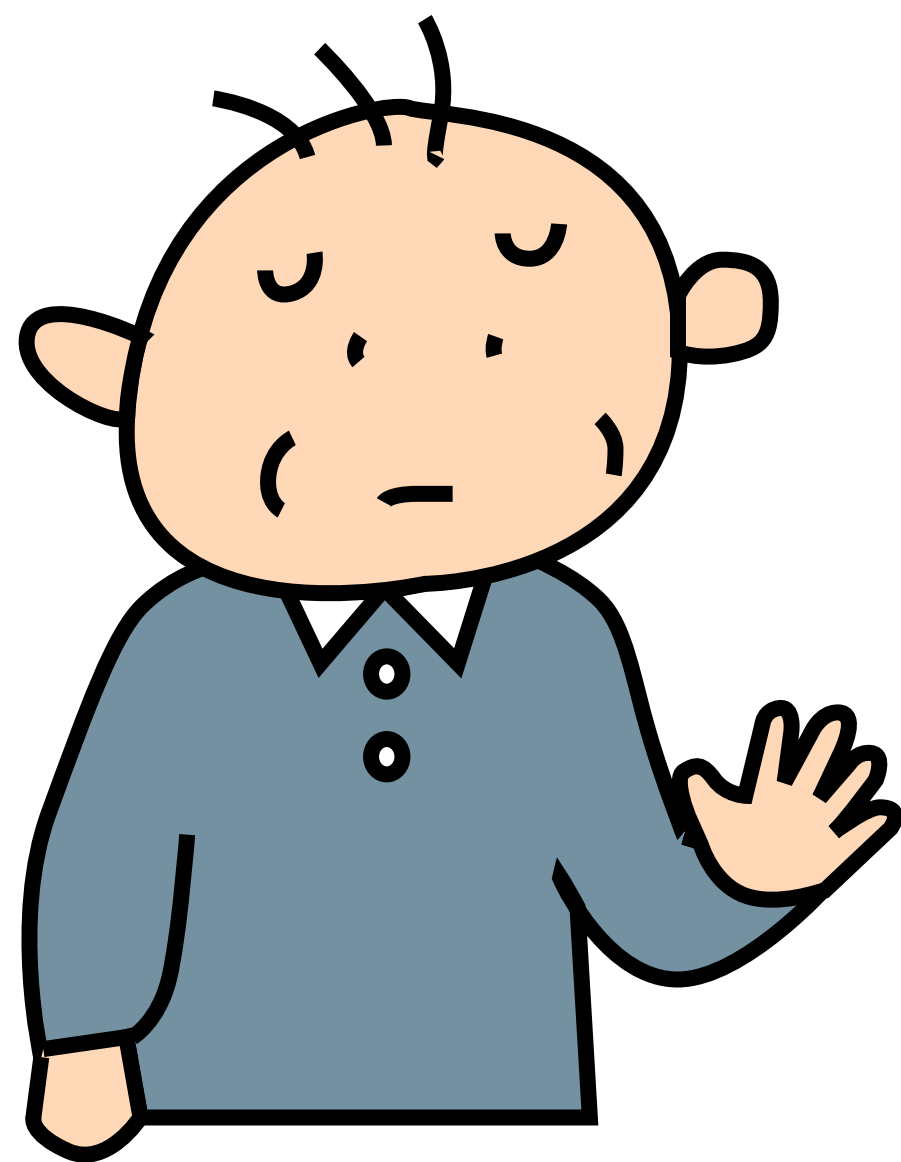
時間です。

だいたい1羽20秒、あひる時計。制限時間は、あひる7羽（だいたい2分）



考えて欲しいこと
**あなたは、その生活を
送りたいと思いますか？**

制度やサービスの
パズルのような
対応だけになって
いないだろうか？



生活支援

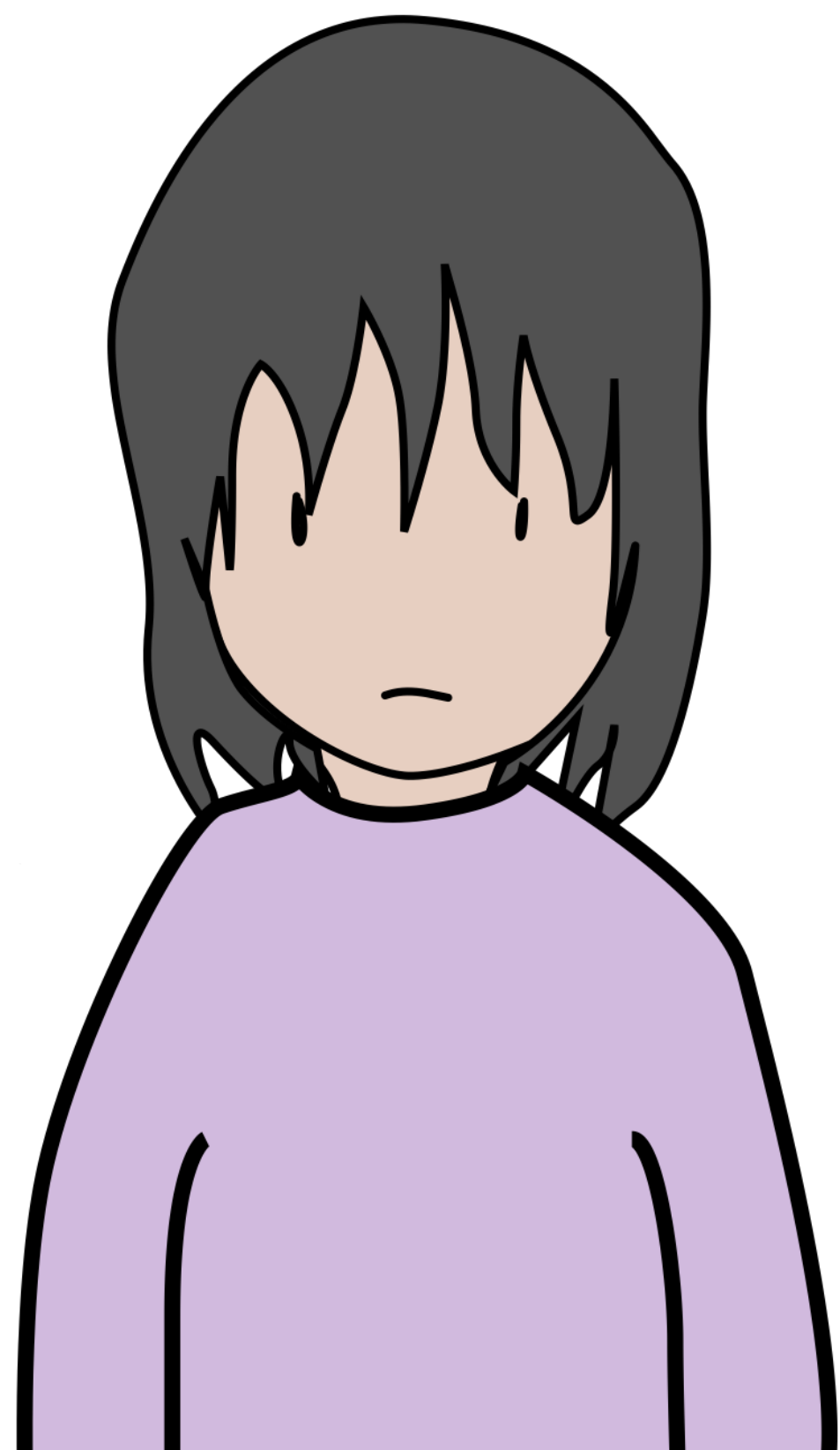
生活支援

2. 「生活支援」

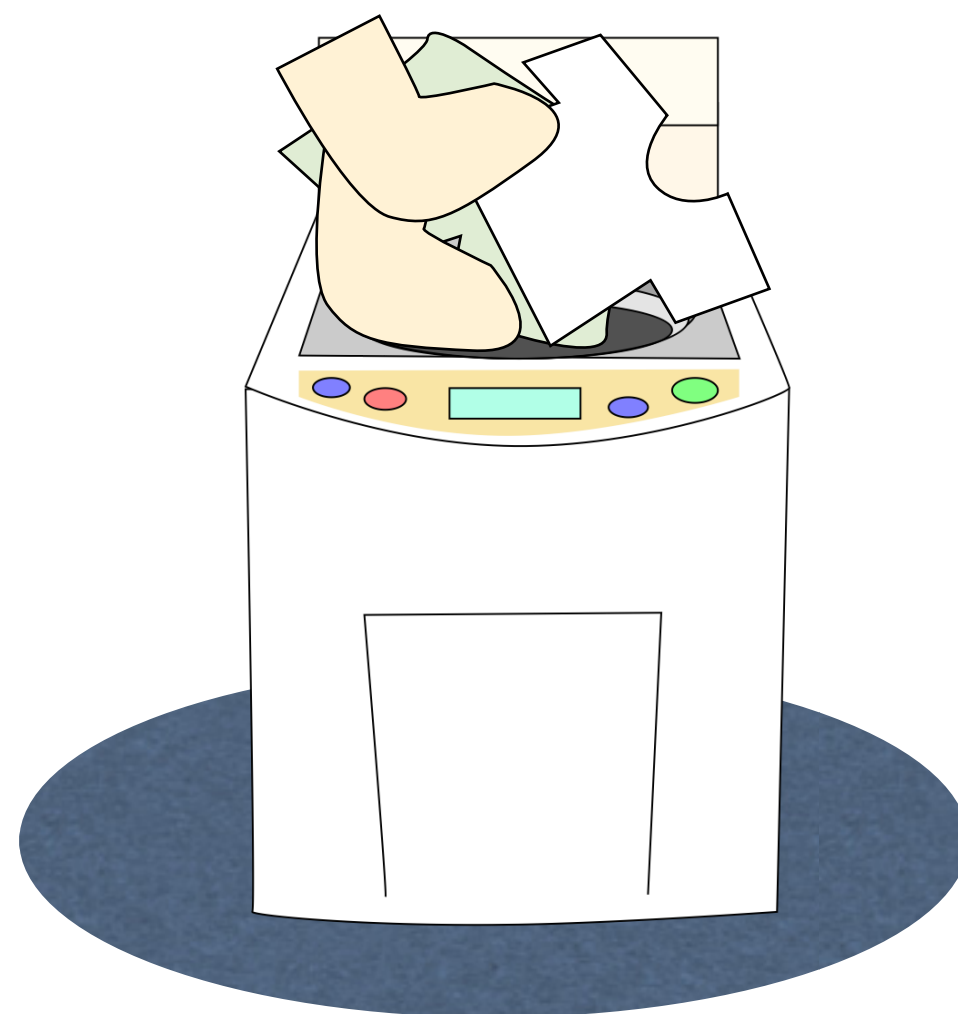
ごく当たり前の生活の 実現に向けて

事例2：Bさん

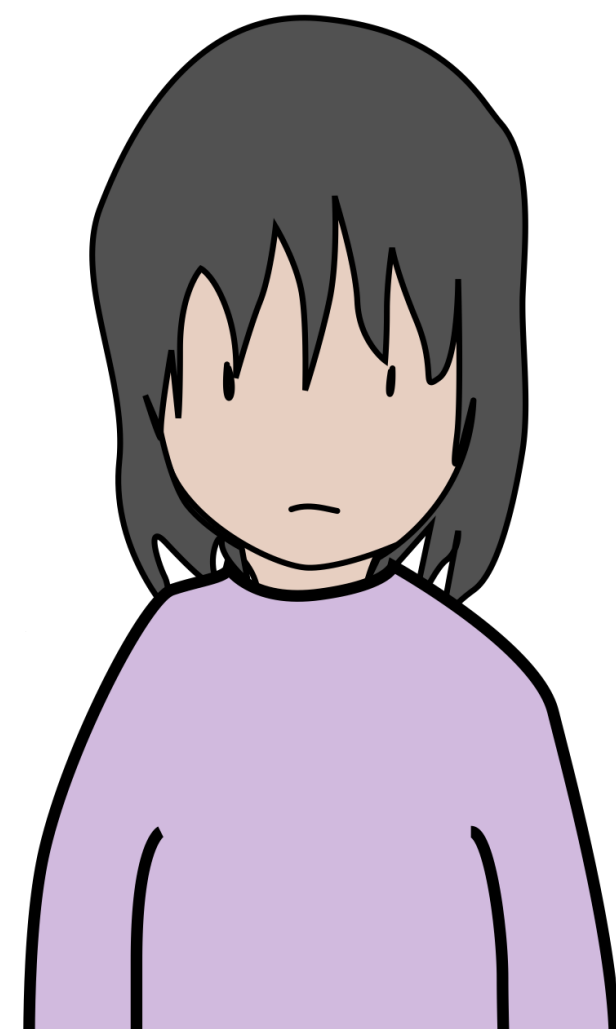
一人暮らしを始めたばかりのBさん

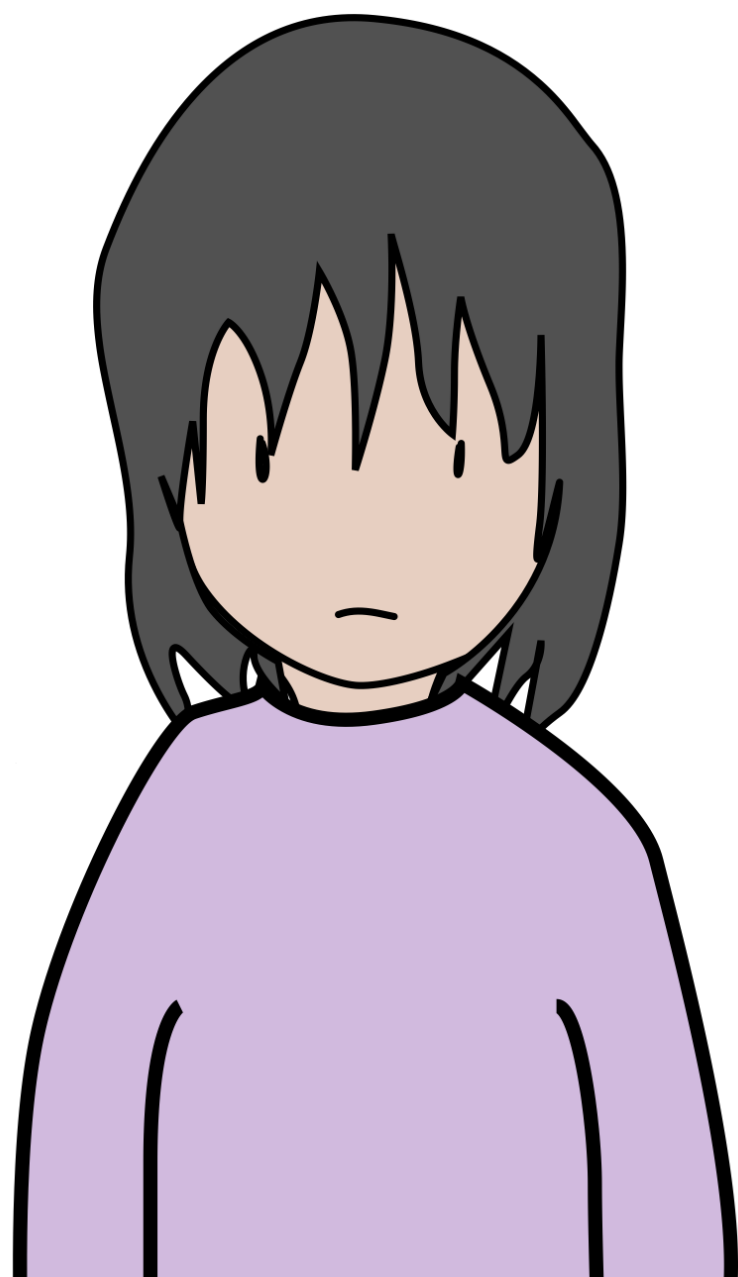


Bさん（30代女性）は、退院して初めてアパートで一人暮らしを始めました。洗濯機など必要な家財道具は用意して退院したのに洗濯をしている様子がありません。訪問した際に話を聞いてみると、洗濯物を溜め込んでしまうので1回で洗濯が終わらず、面倒だから洗濯しなくなったとのことでした。



あなたならどう支援しますか？





Bさんをどう支援する？

ONLINE

洗濯機も用意して退院したのに、洗濯物を1週間分溜め込んでしまうので1回で洗濯が終わらず、面倒で洗濯しなくなってしまったBさん。どんな支援が考えられる？



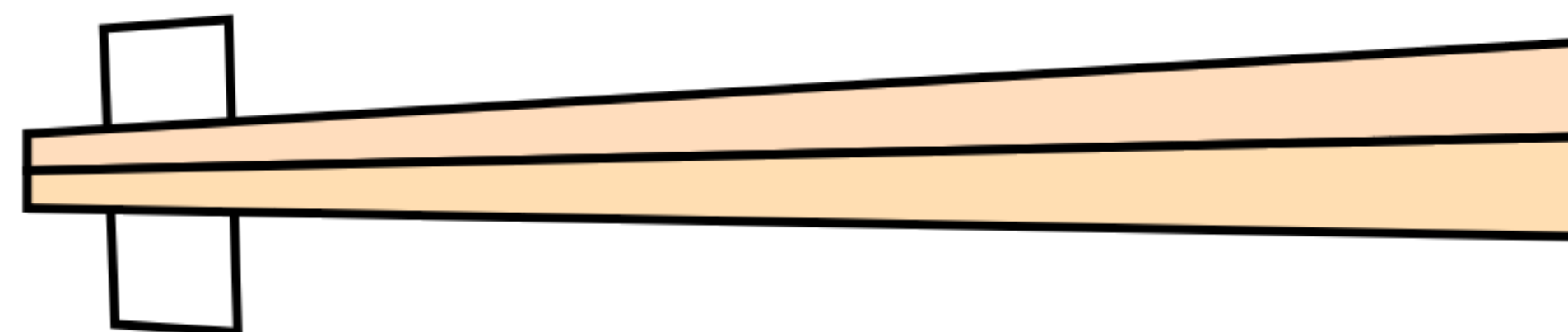
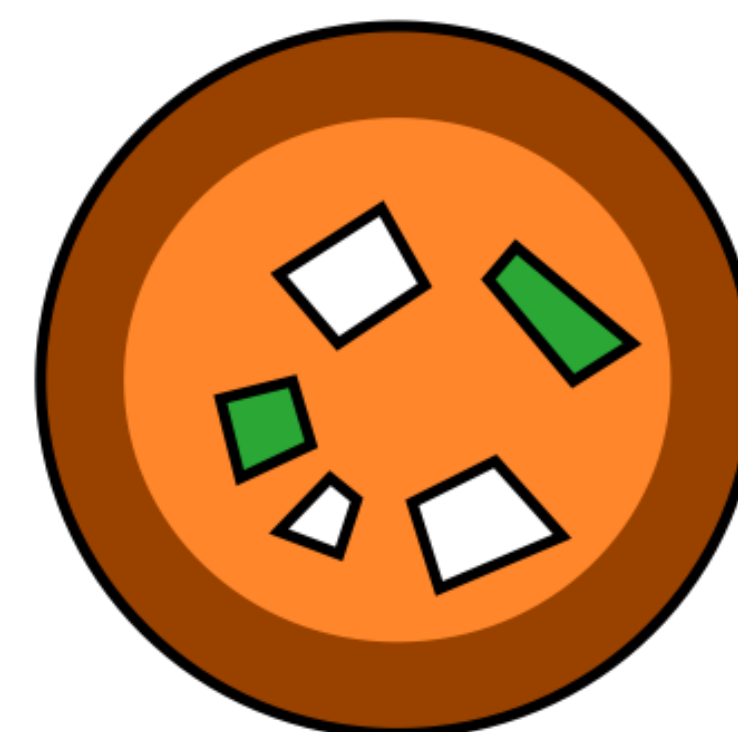
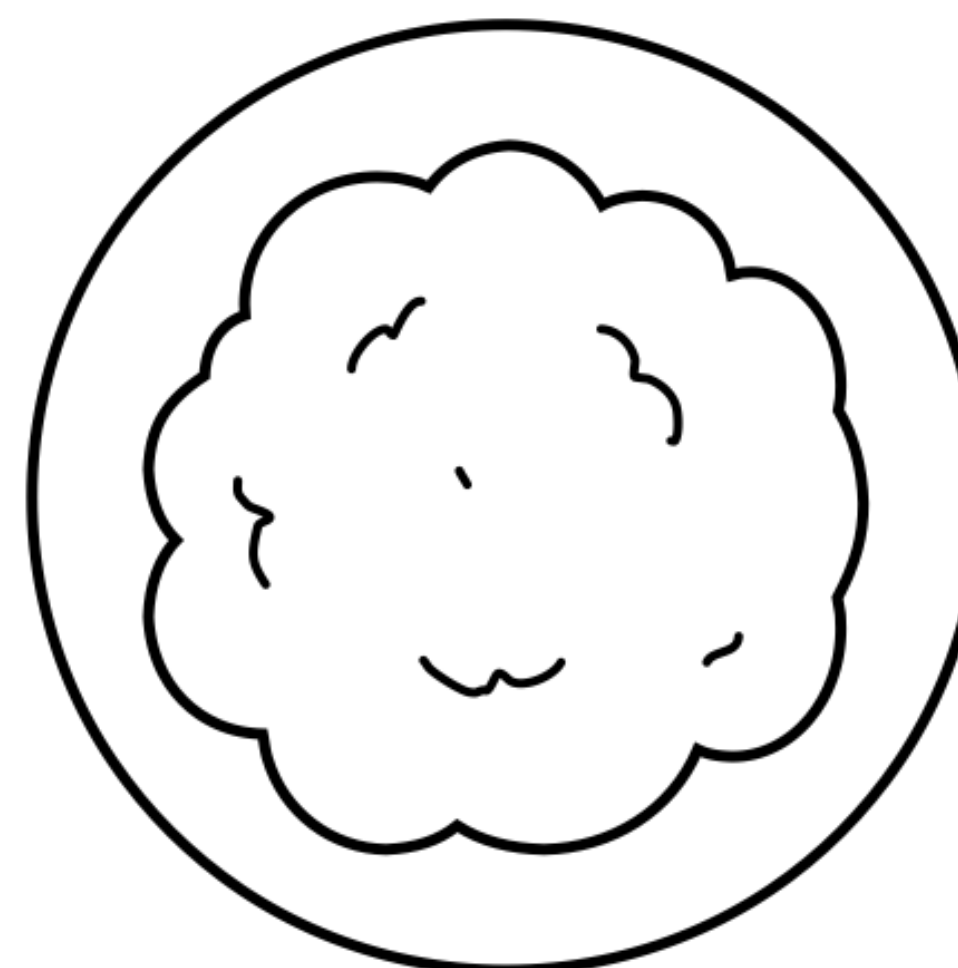
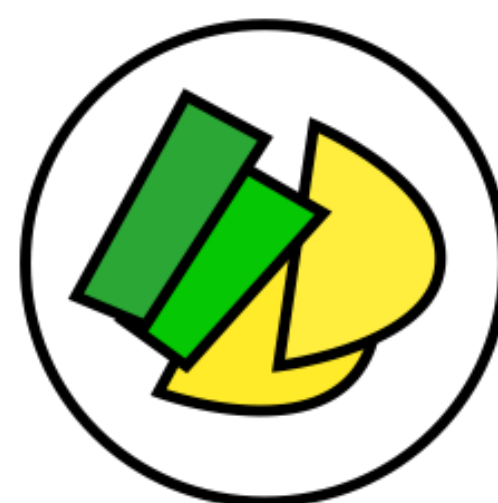
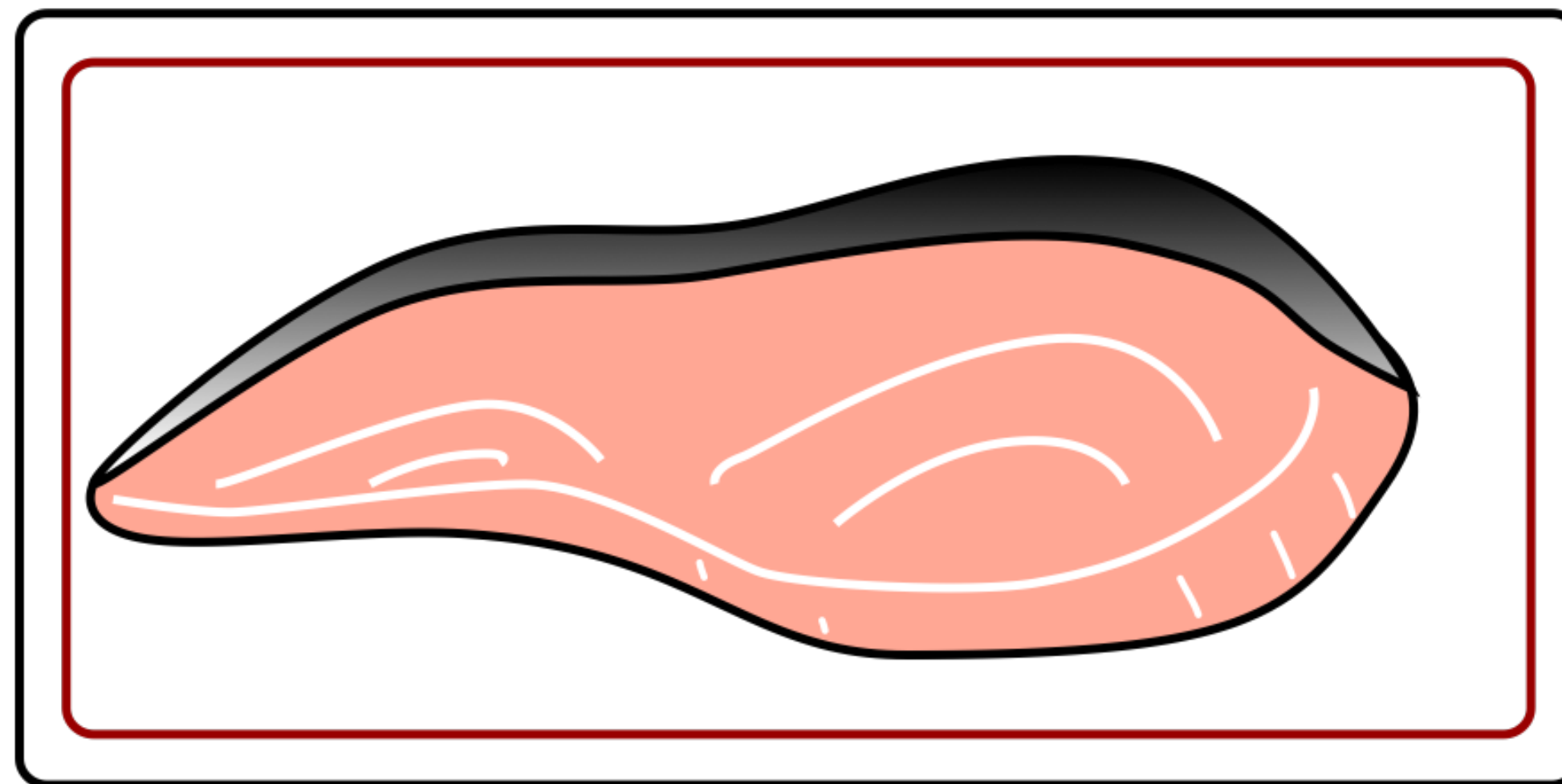
だいたい1羽20秒、あひる時計。制限時間は、あひる7羽（だいたい2分）

warming
up!

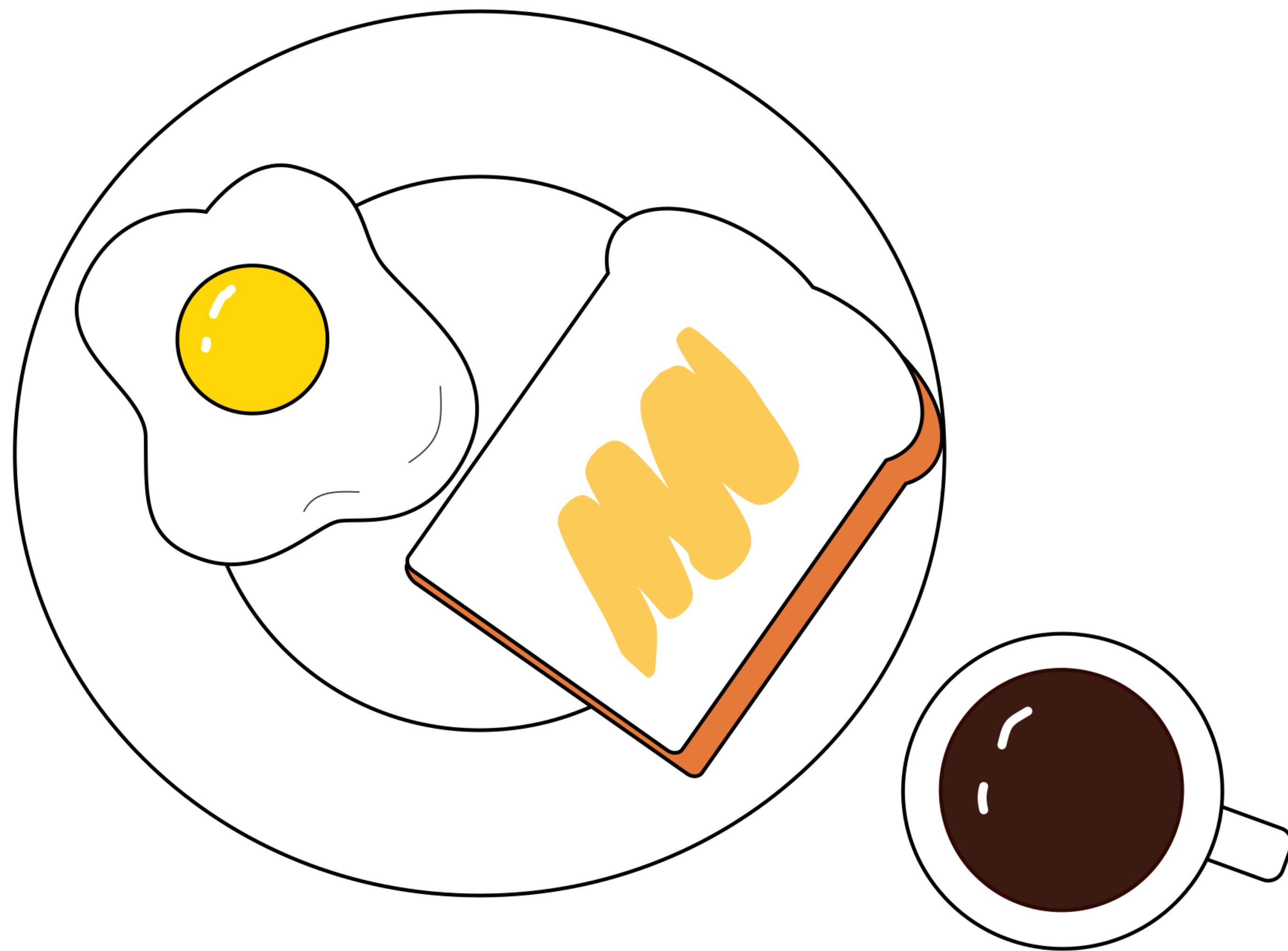
考えてみよう。

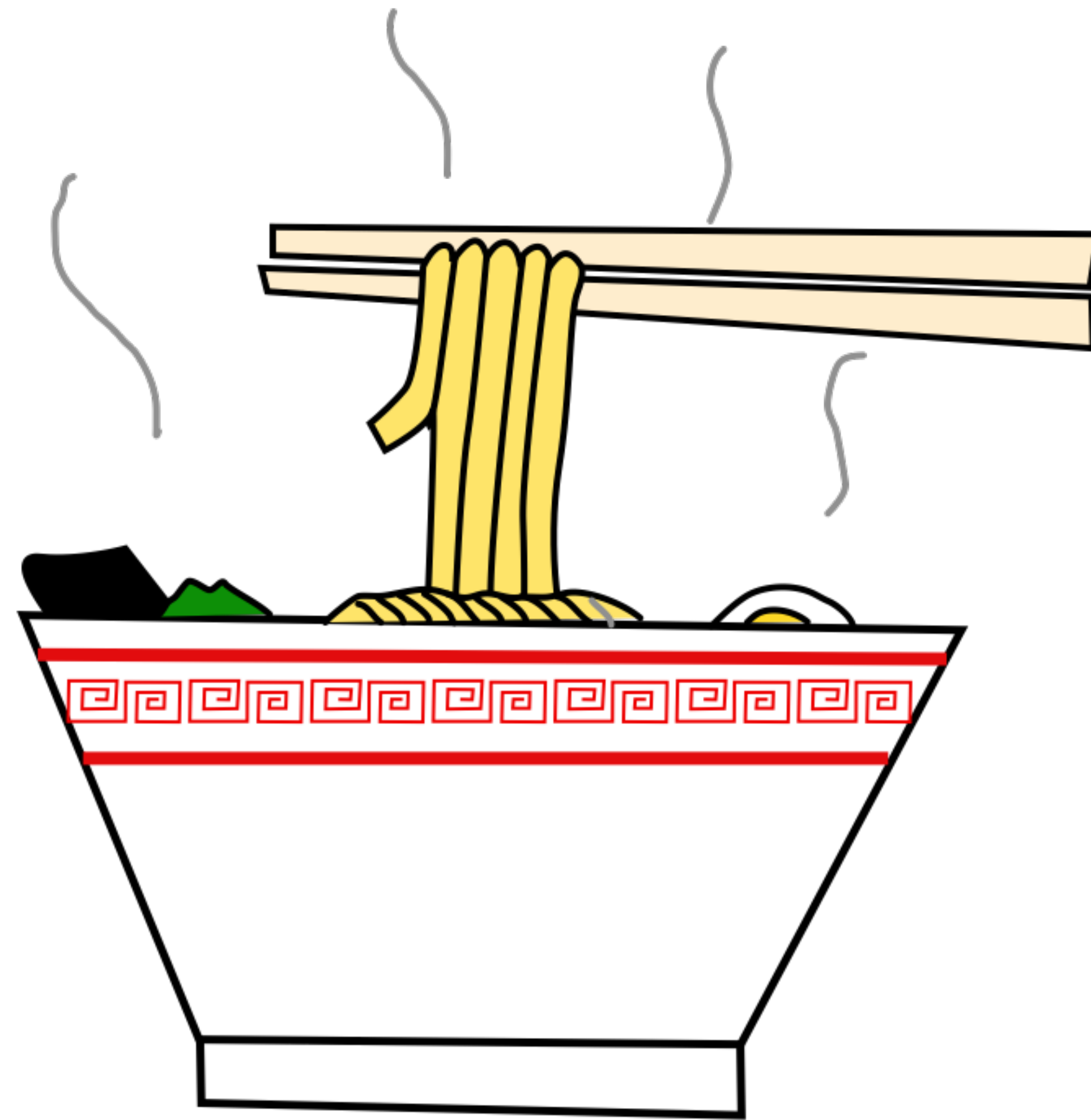
当たり前の生活って？

**朝食は和食に
限る！**



朝食はパンと
コーヒーが
一番。

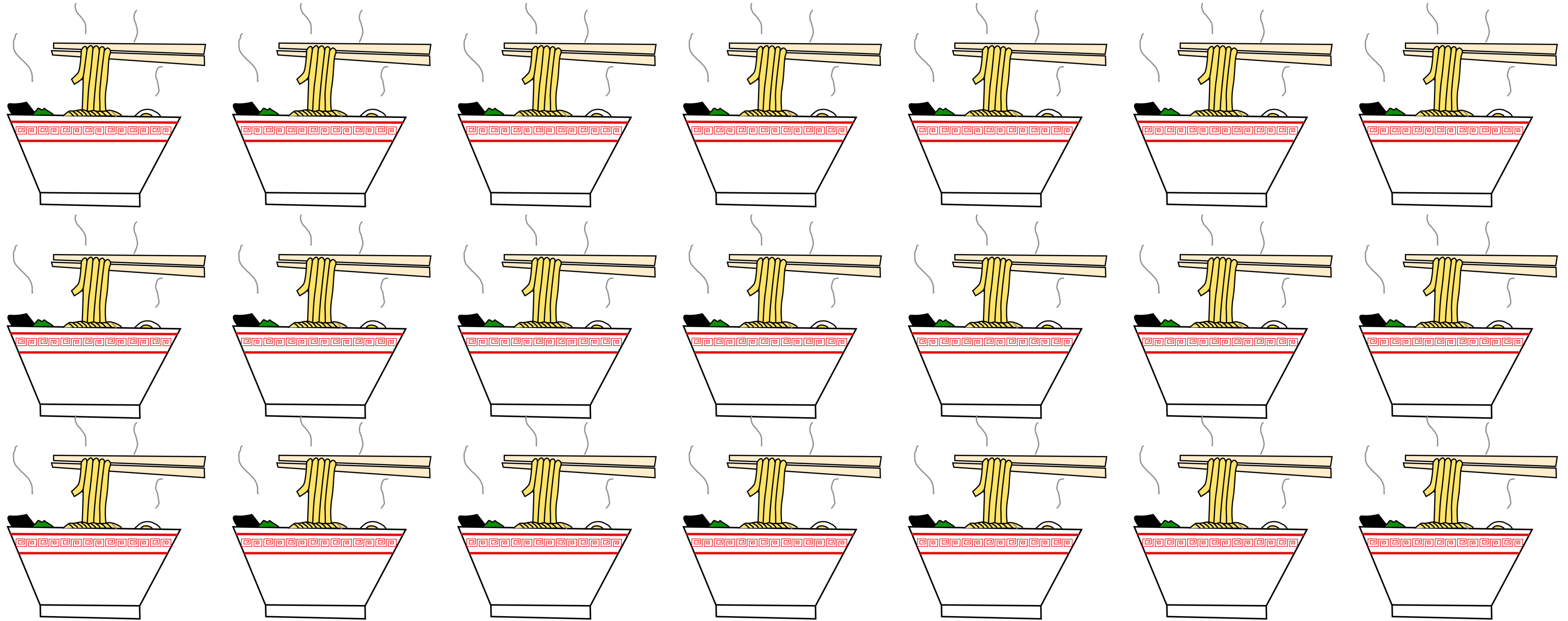




ラーメン大好き！

月 火 水 木 金 土 日

朝
昼
夕



1週間3食ラーメンでもいい？

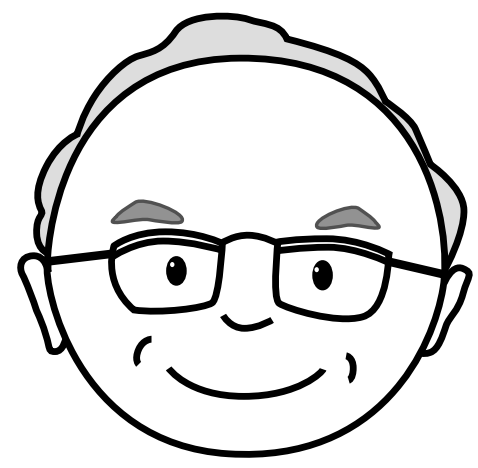
食事ひとつとっても…
生活は人によって違うし、
同じ人でも目々変わる。



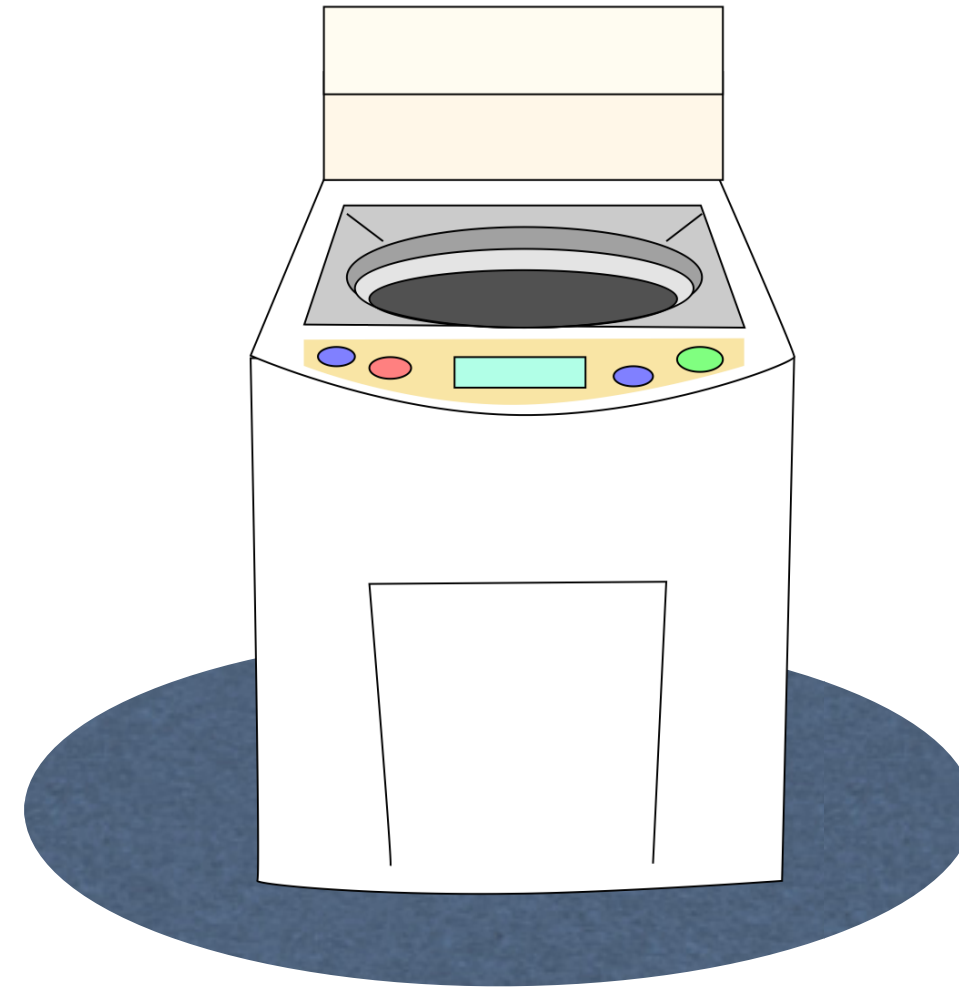
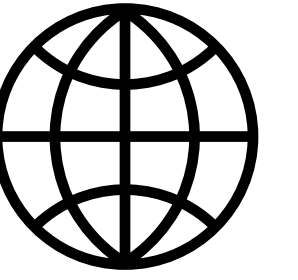
当たり前
生活

自分で生活を選ぶこと

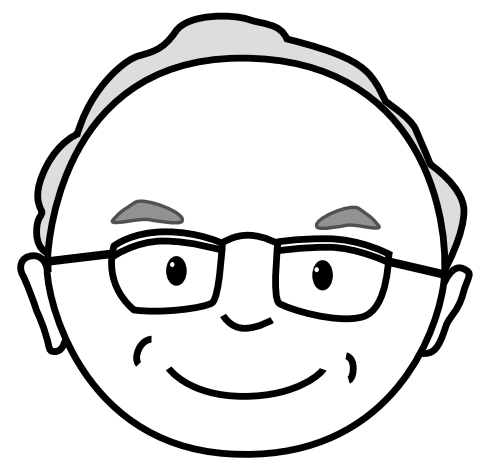
選んだ生活が尊重されること



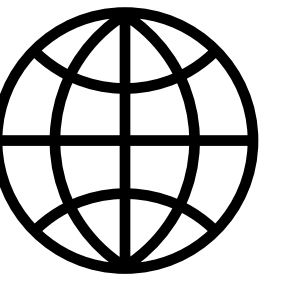
「生活支援」
78ページ



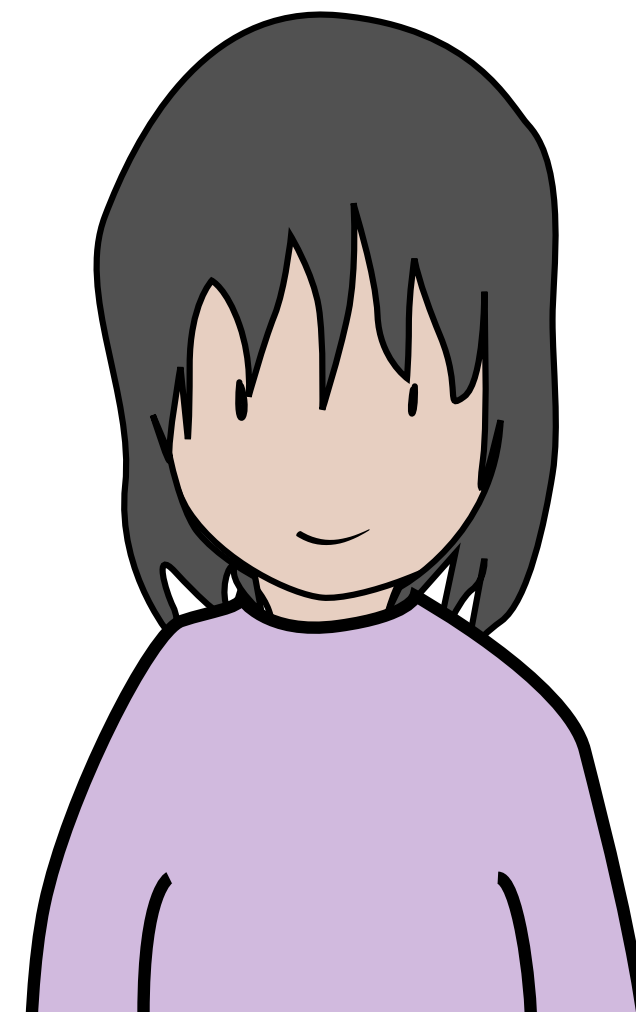
Bさんの洗濯はどうしたらいい？

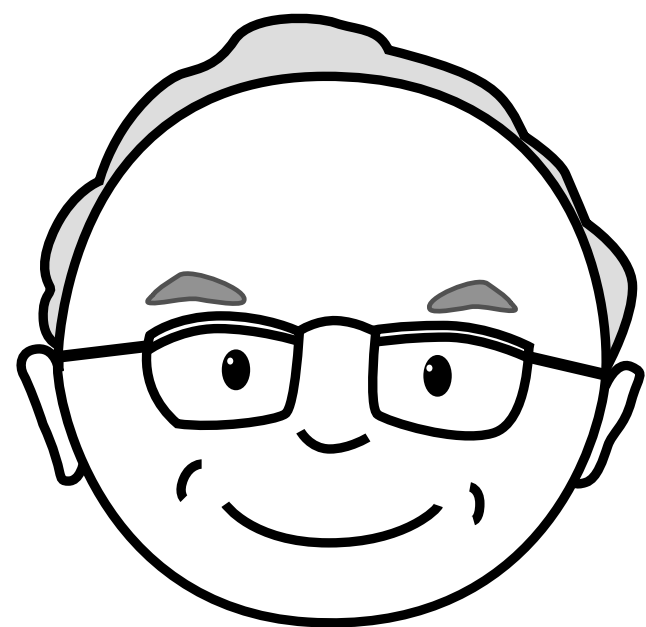


「生活支援」
78ページ



大きな洗濯機に取り替えて解決！





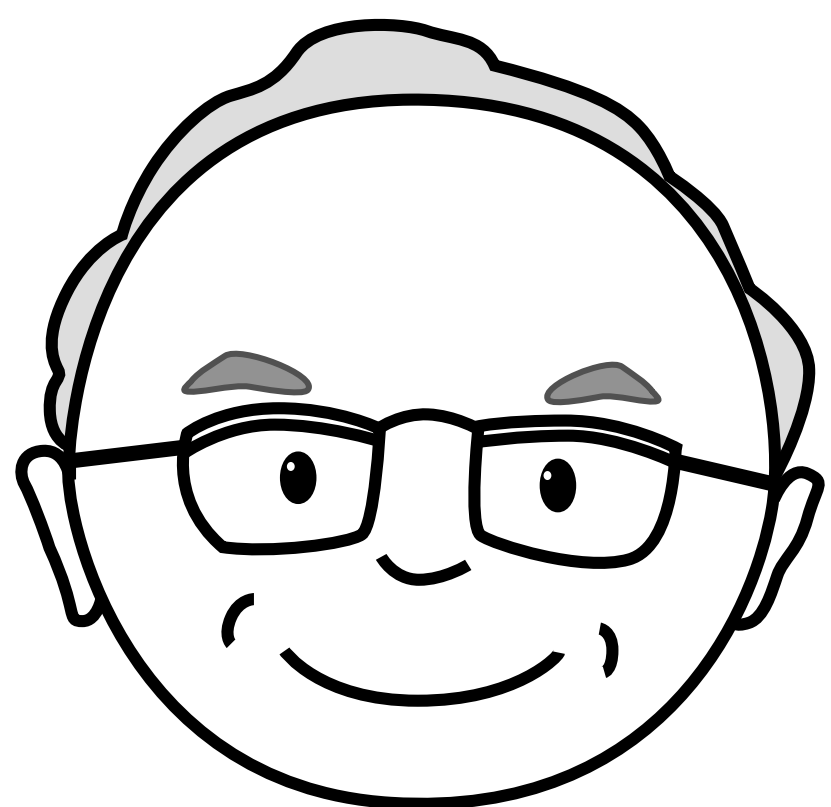
ごく当たり前の生活

「生活支援」
149ページ

私が「ごく」という表現を用いる場合、精神障害者を普通の人にか、普通の生活の状態に戻す、というようなレベルのことを意味しているのではないのである。

そのままを認め、そのままを受け入れ、そのままの生活を可能に
していくことに大きな意味があるのである。（中略）

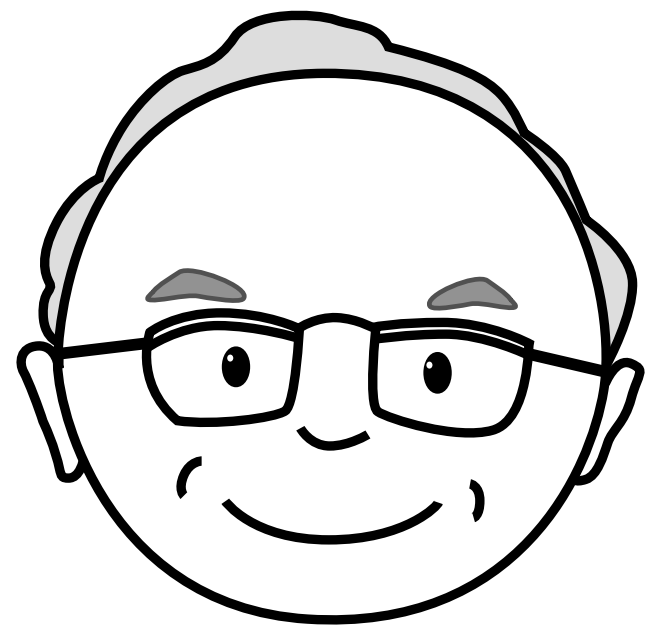
その人なりの生活、その人らしい生活を認めるということは、**普
通の状態へもっていくための訓練や指導を抜きにして、生活を支え
ていく**ということであり、それが「生活支援」の原点なのである。



**その人なりの生活
その人らしい生活** を認め、支える

=生活支援の原点

3. 「生活のしづらさ」が 持つ深い意味

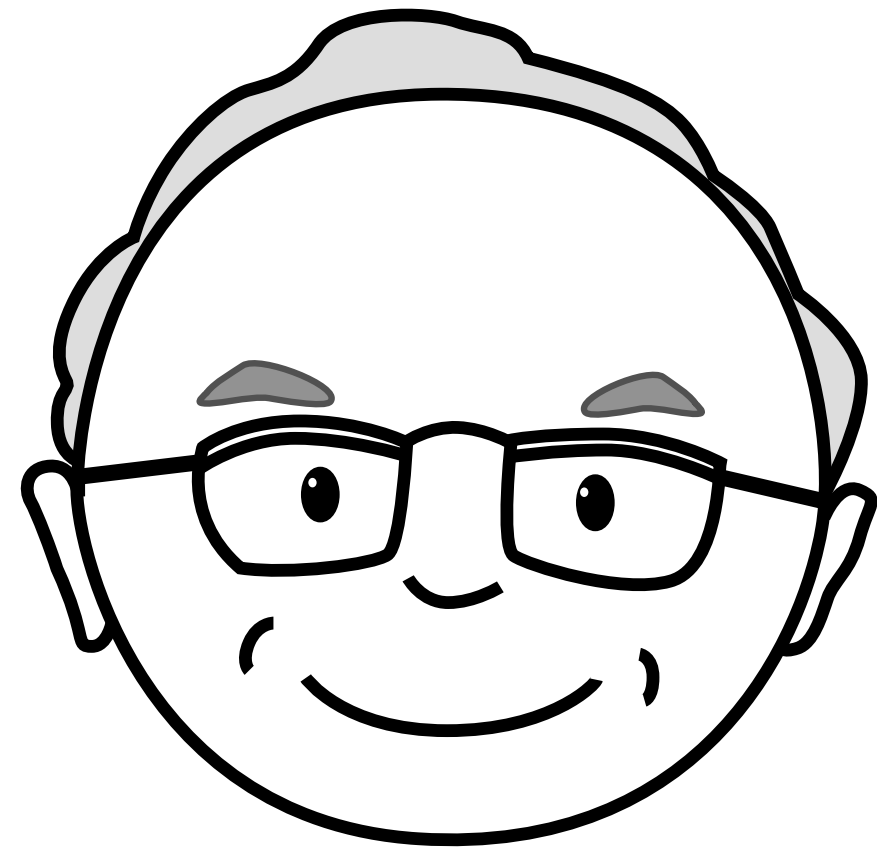


生活のしづらさ

「生活支援」
191ページ

私は、「生活のしづらさを『症状』のためと考えるのではなく、
経験不足、自信のなさ、要領の悪さなどによるもの」と捉え直した。

「生活のしづらさ」については、年代によって強調点が変化していつている。始めは「長期入院の弊害」として、次に「症状」によるものとして、さらに、その人の「要領の悪さ」「不器用さ」という発病前の状態として、というように捉え方が変わっていったのである。



生活のしづらさ

精神障害を特別なものとせず、
誰にでもある生きづらさの経験
にとらえ直した。

治療や訓練の対象ではなく、
支援の対象として位置付けた。



「生活のしづらさ」の意義

障害のモデル	焦点	対応
医学モデル	病気・症状	治療 リハビリテーション
社会モデル	社会体制・環境	環境整備 社会改革
「生活のしづらさ」 (生活支援モデル)	体験・経験	生活支援

4. ストレングスモデルが 教えてくれたもの

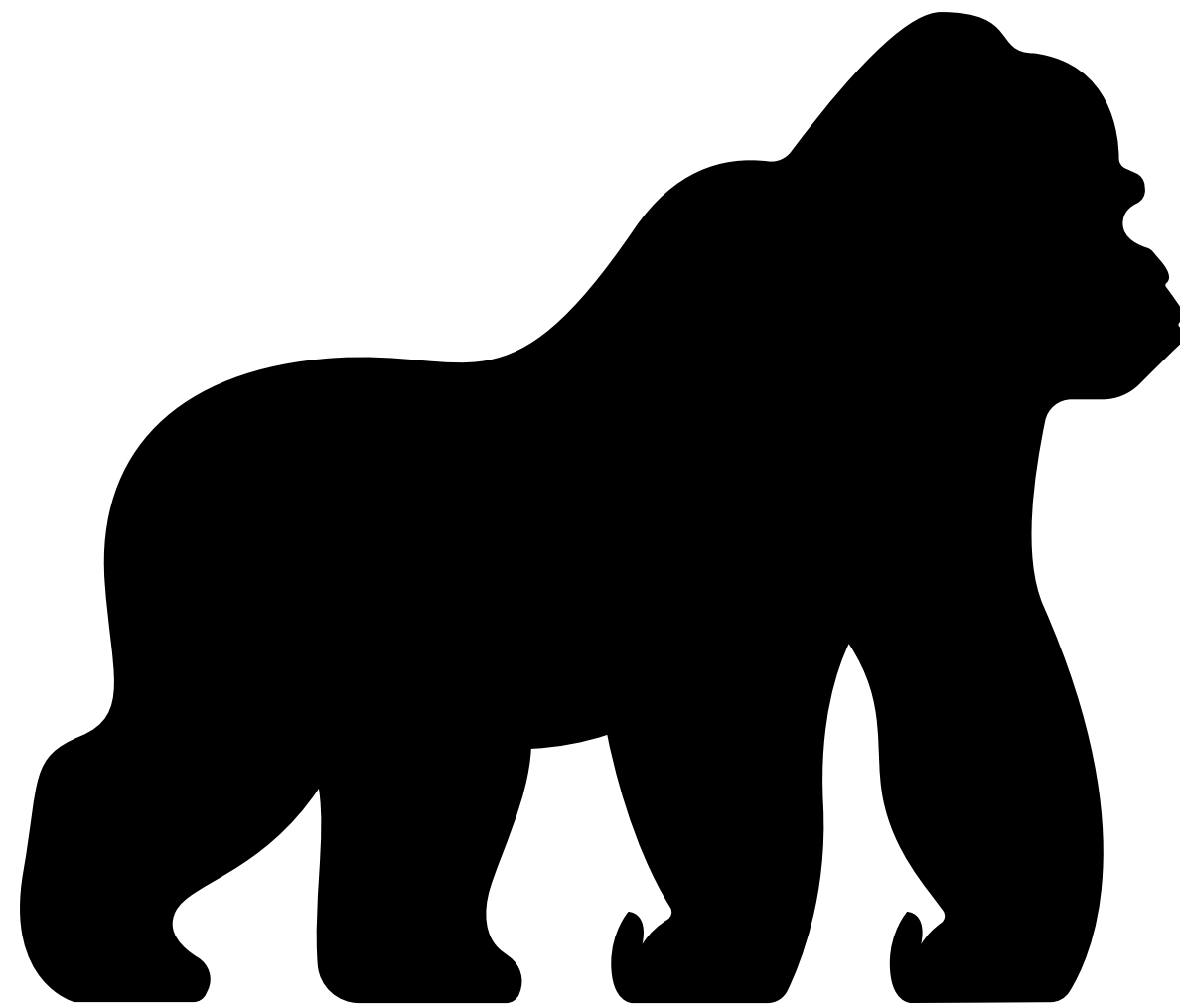
ストレングスを理解する

Strength

ストレングス=力、勢い、強さ

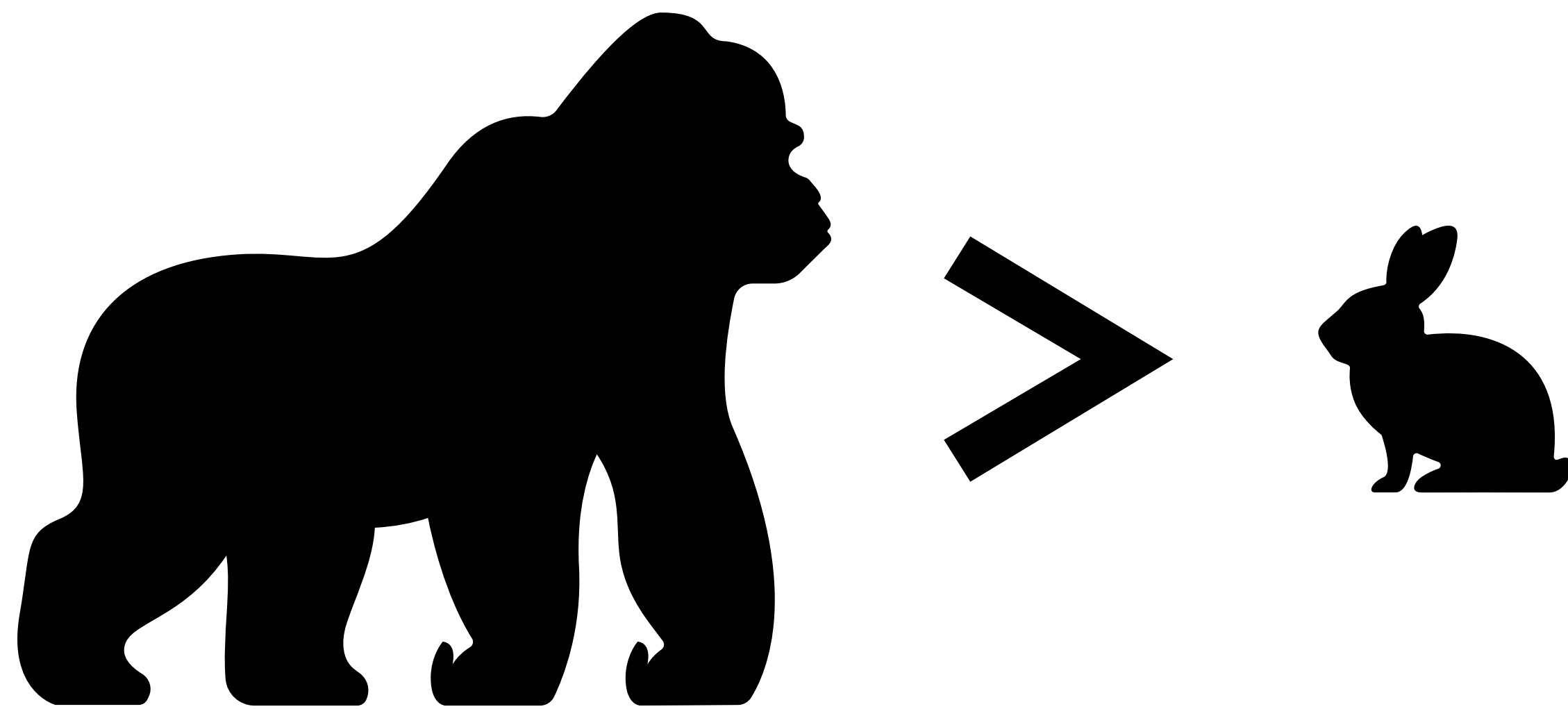
warming
up!

考えてみよう。



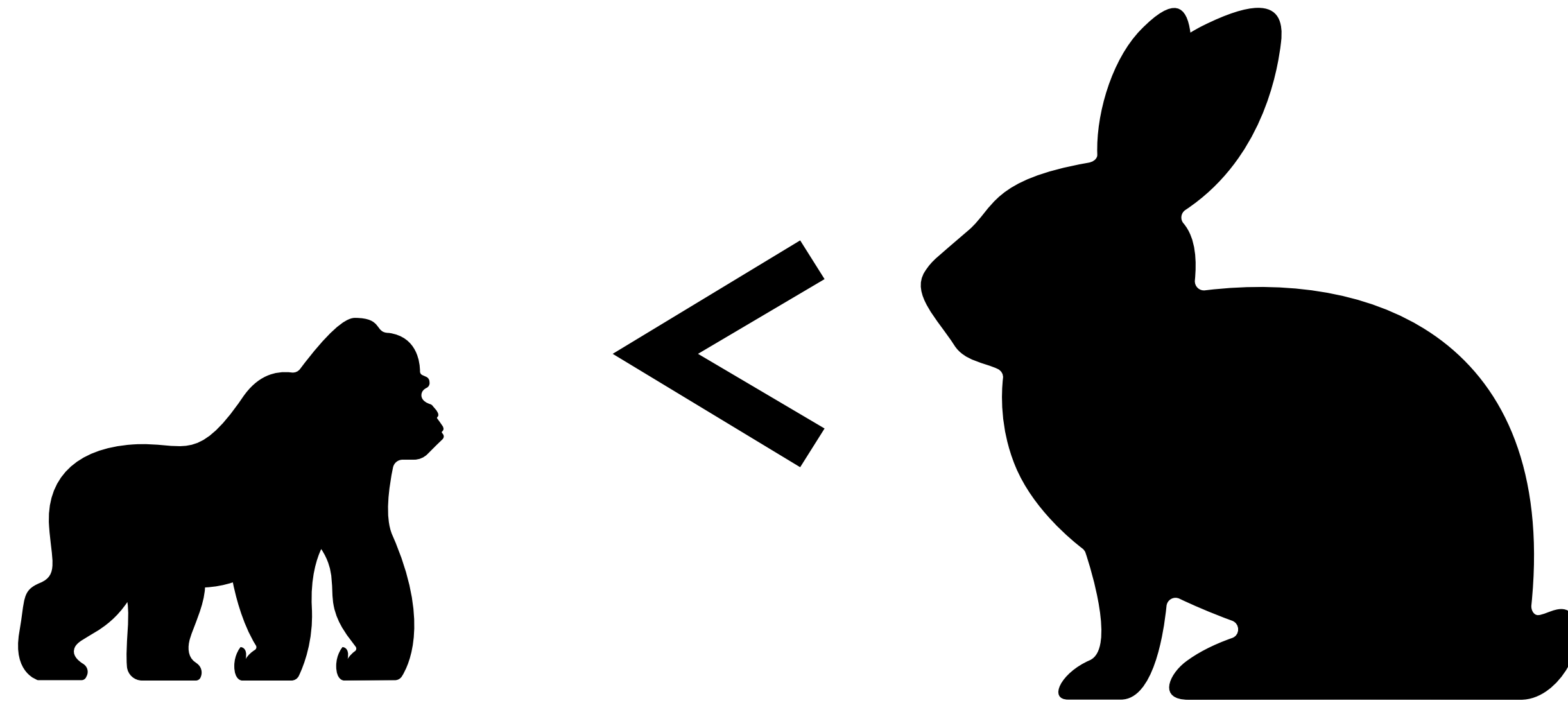
ゴリラとウサギ、強いのはどっち？

力、強さといっても…



普通はこう見えるけれど…

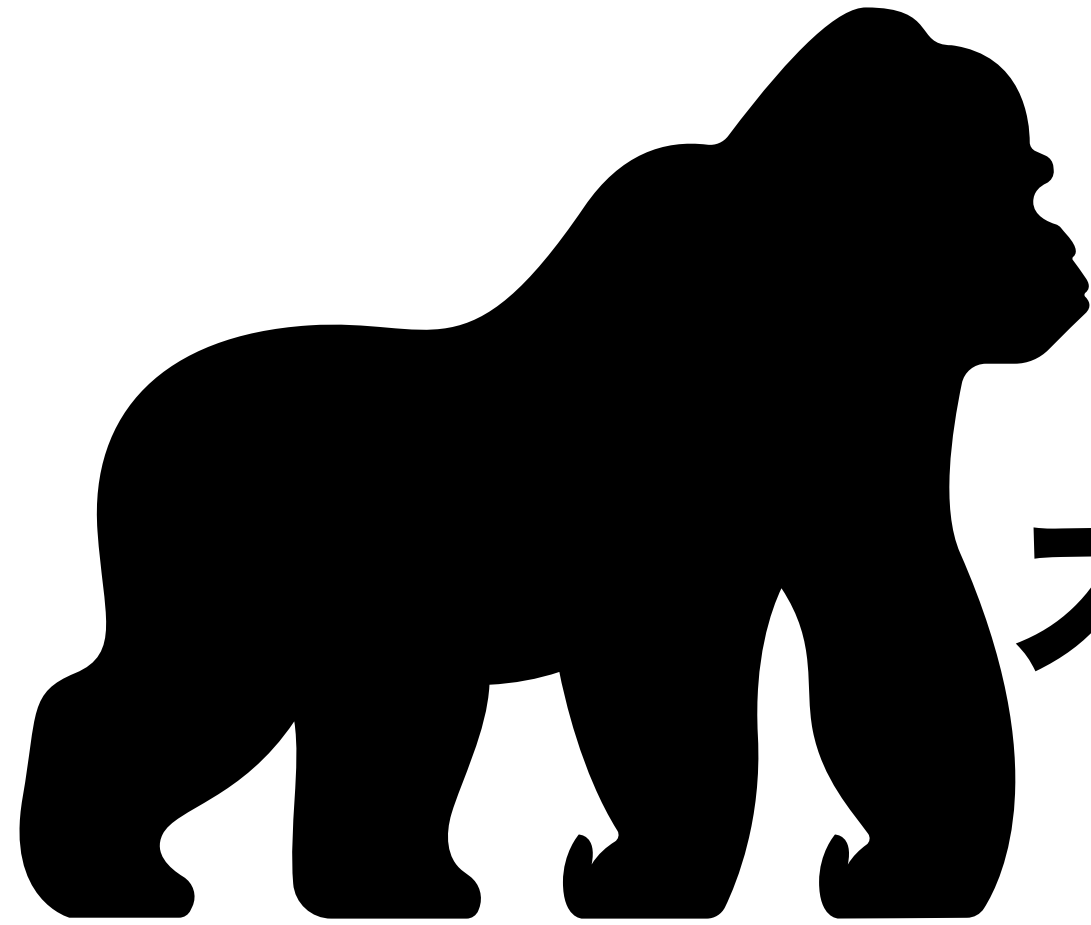
力、強さといっても…



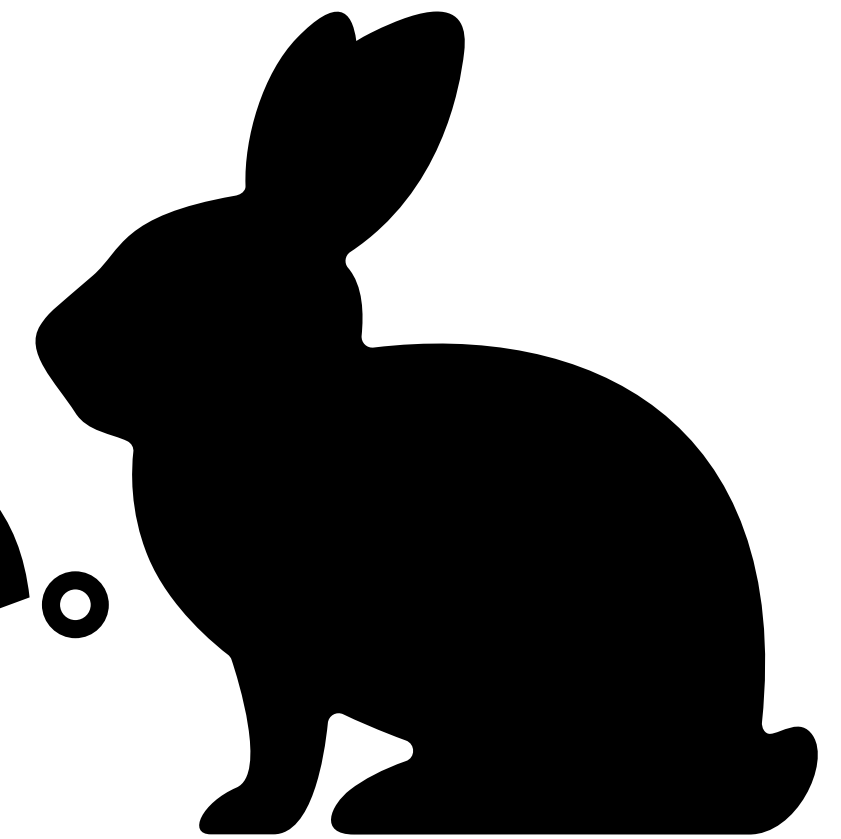
こういう場合もあり得るのがストレングス。

warming
up!

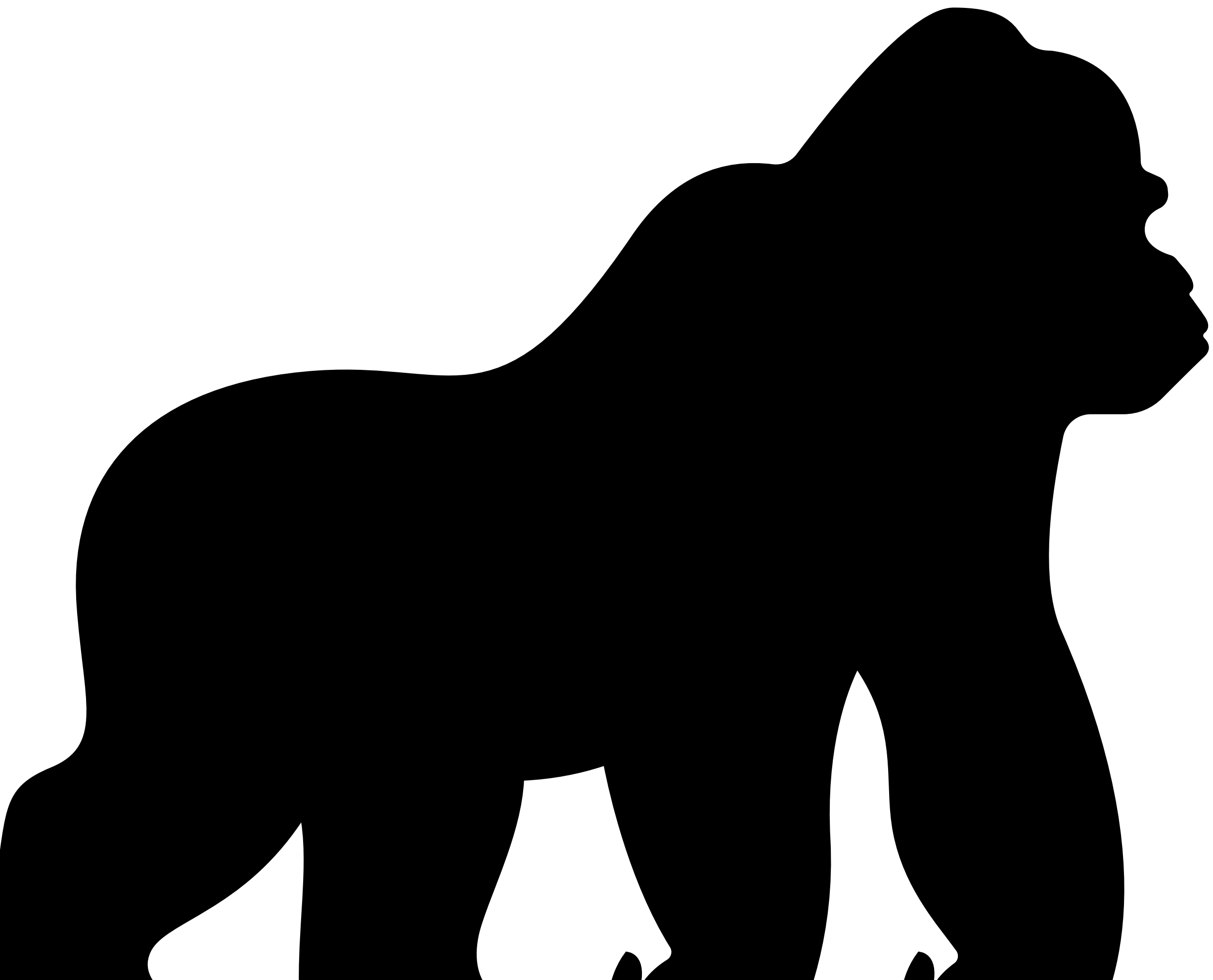
考えてみよう。



ウサギとゴリラ、それぞれの
ストレングスを見つけてください。



ストレングスの考え方



腕力が強い。

体力がある。

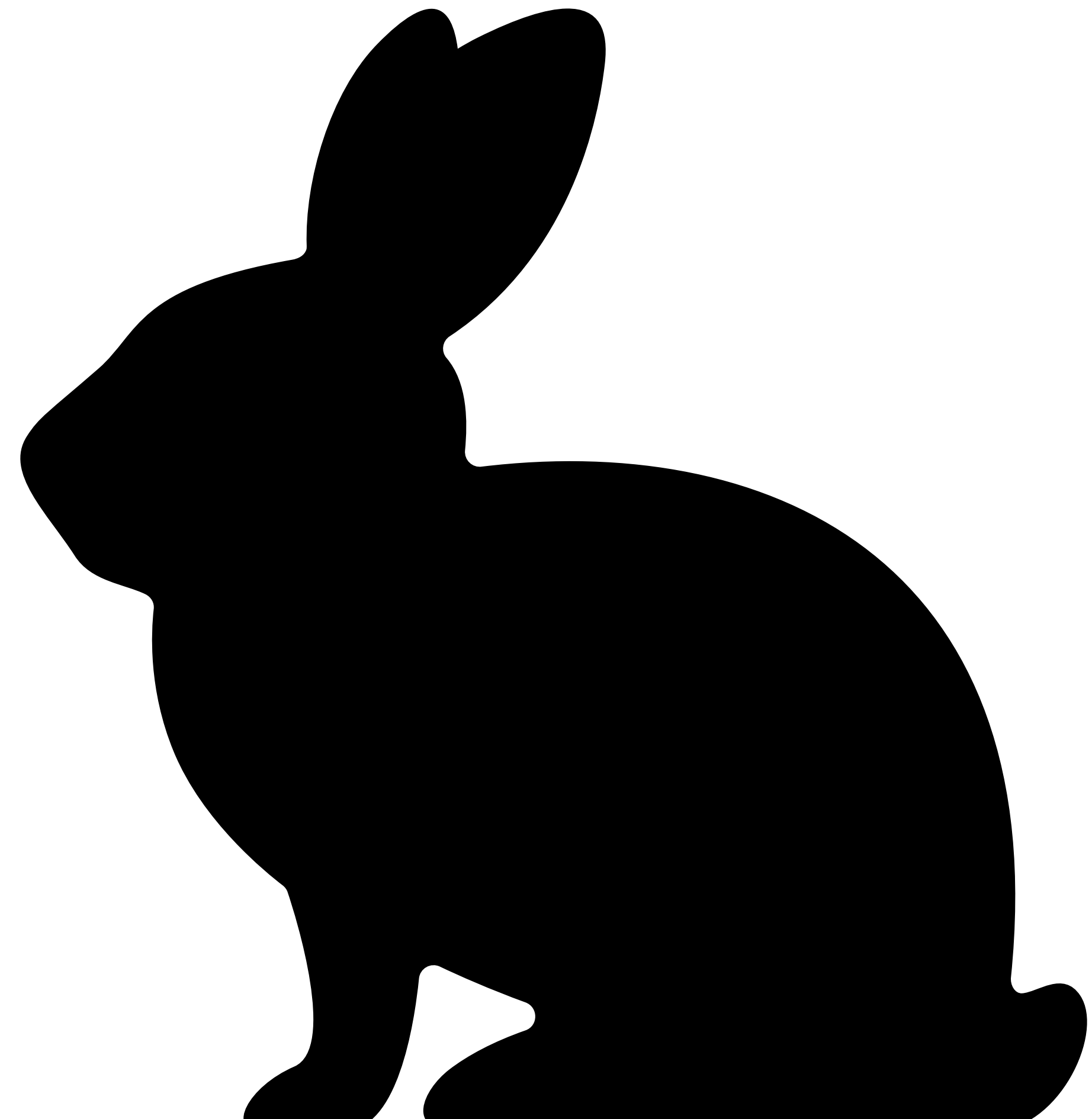
ケン力が強い。

ストレングスの考え方

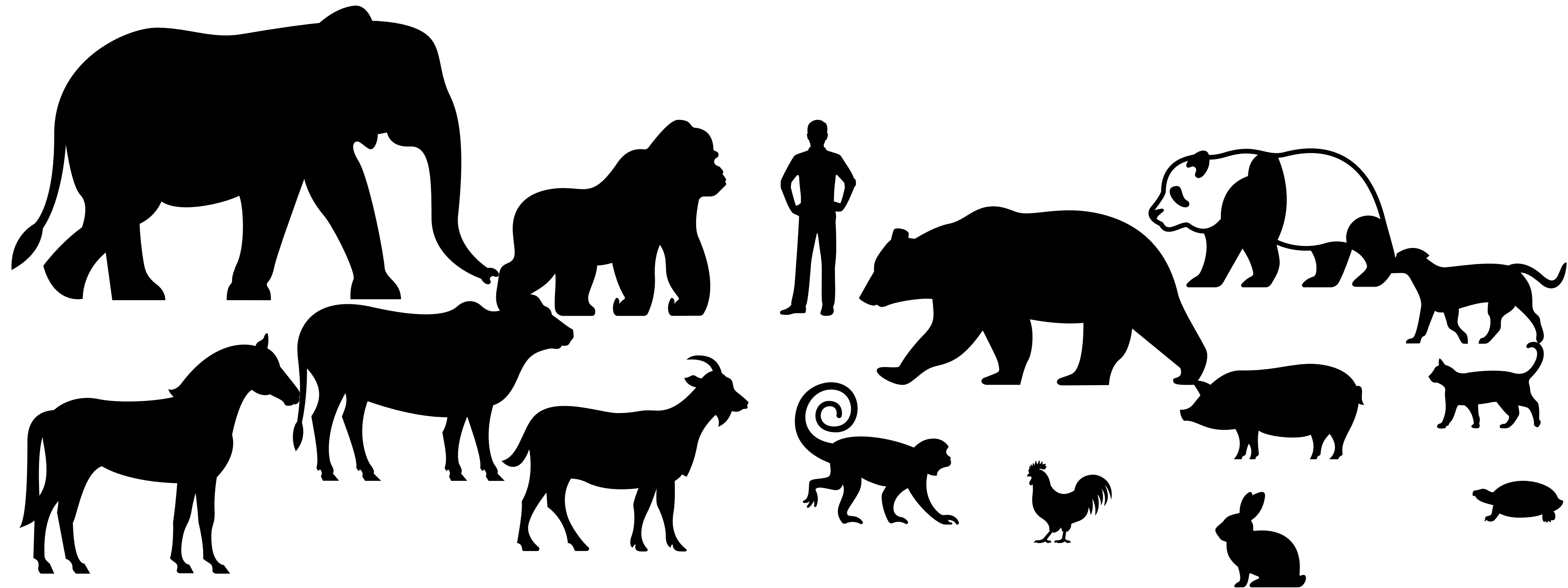
耳がいい。

かわいい。
強さは「力」とは限らない

にんじんが好き。
関心や好みもストレングスになる



誰もがストレングスを 持っている



誰もがストレングスを 持っている



まずはここが大切！

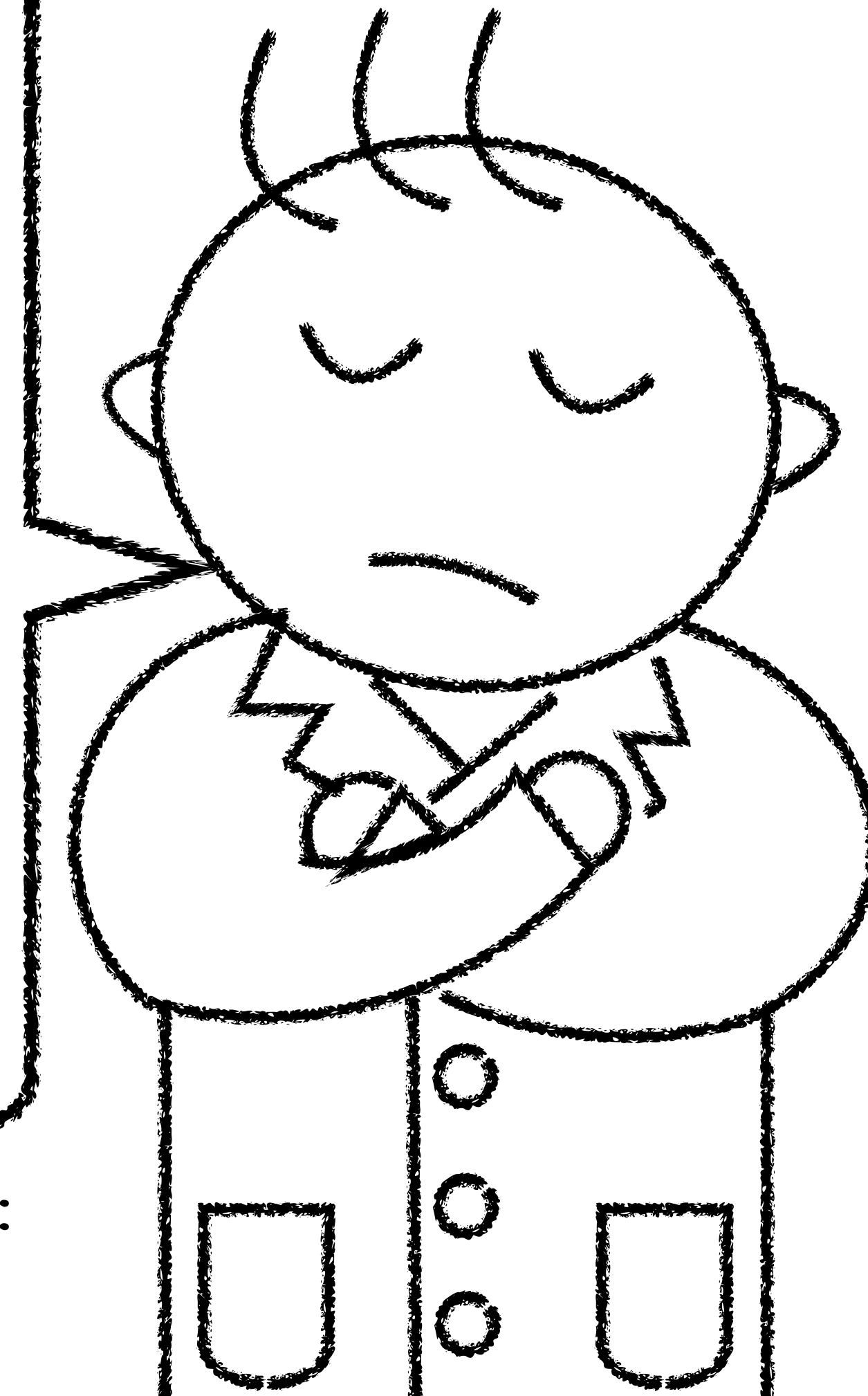
warming
up!

考えてみよう。

ONLINE

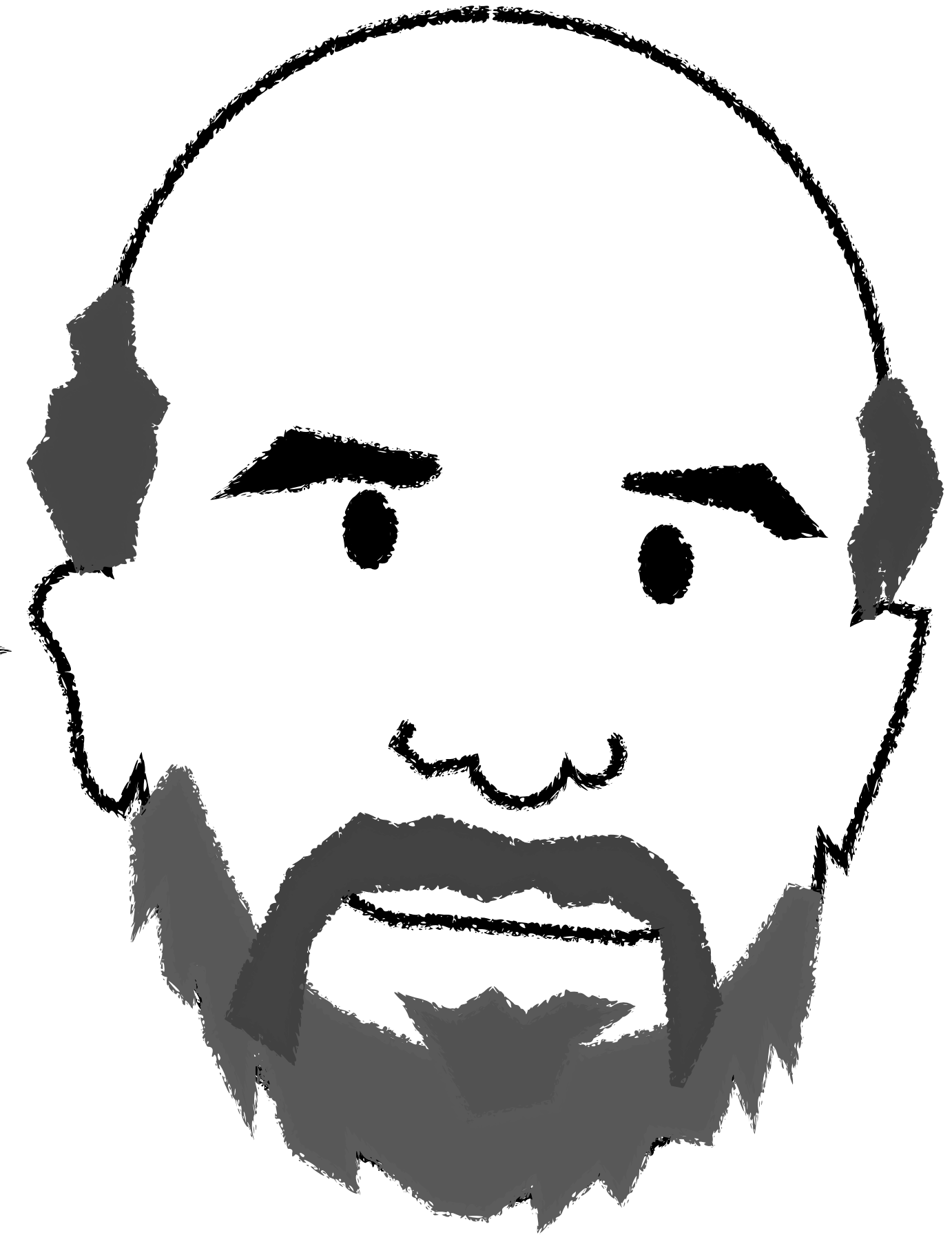
ストレンジスモデルを実
践しようとしています。
でも、なかなかストレン
グスを引き出せない人に
対してはどうしたら良い
のでしょうか？

2003年精神障害者リハビリテーション学会：
ラップさん講演での質問より



…ラップさんの答え

それは、相手のスト
レンダスがどこにあ
るのか全く解らない
ということですか？



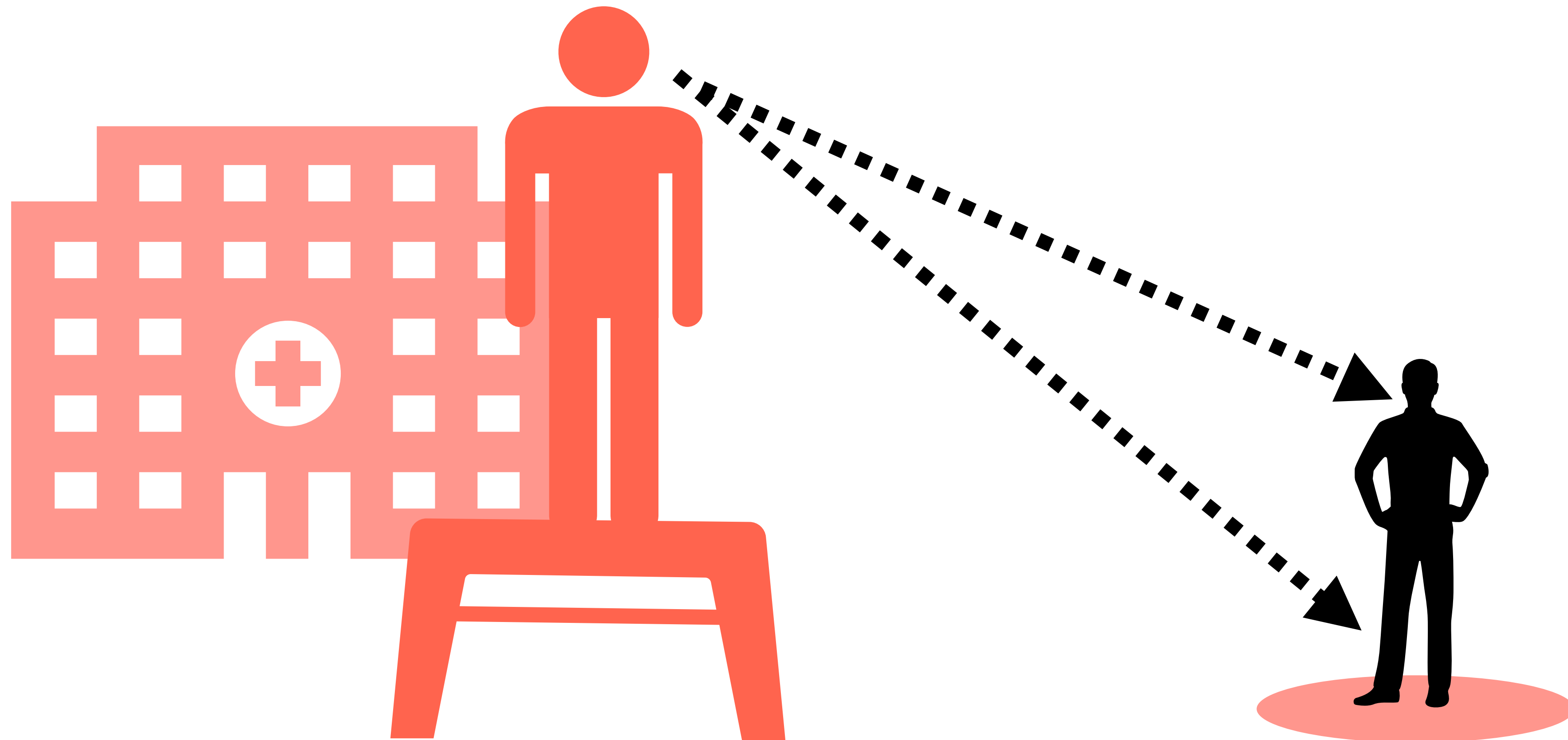
ラップさん（似顔絵）

Strength Perspective

ストレングス視点

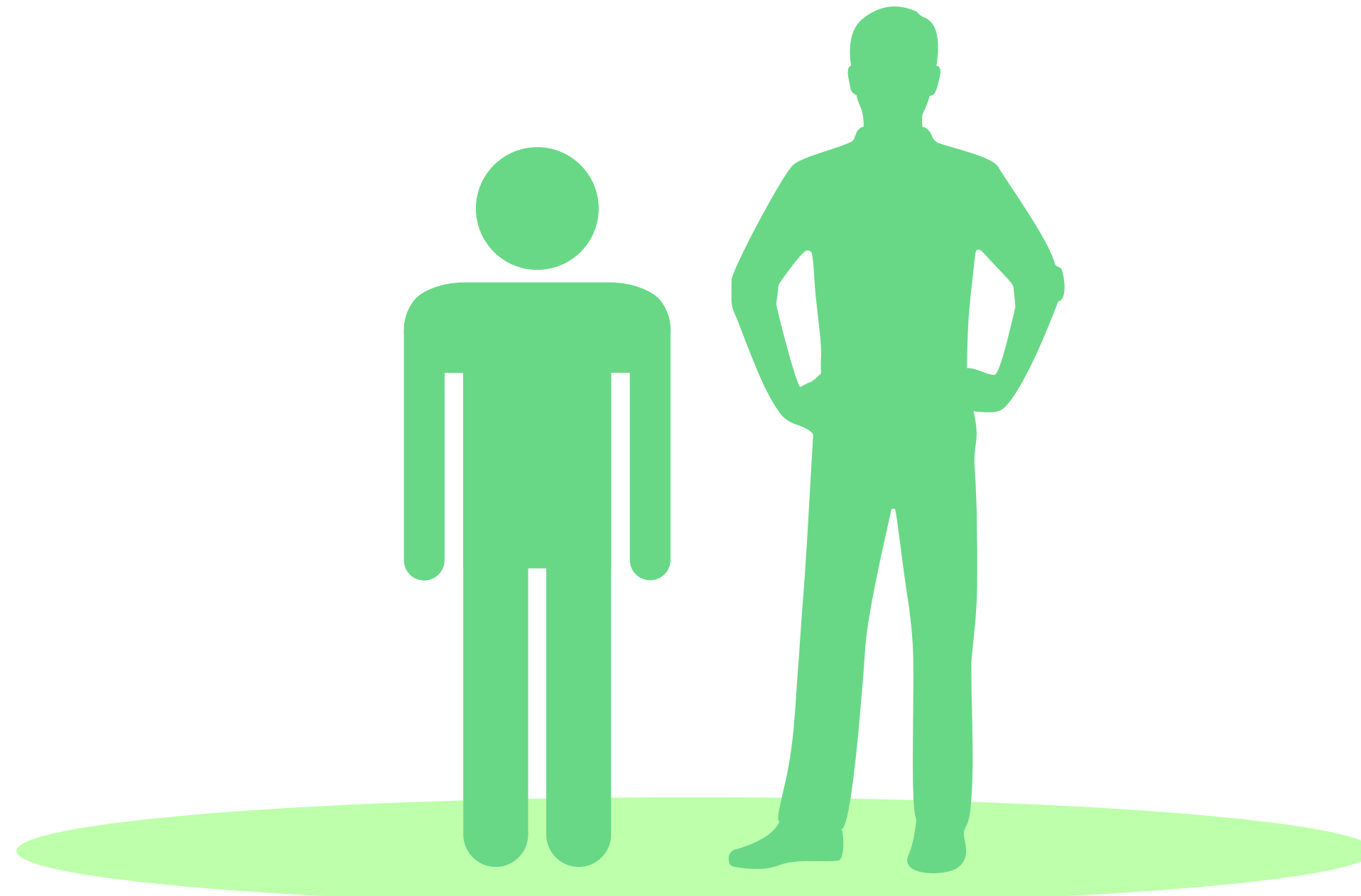
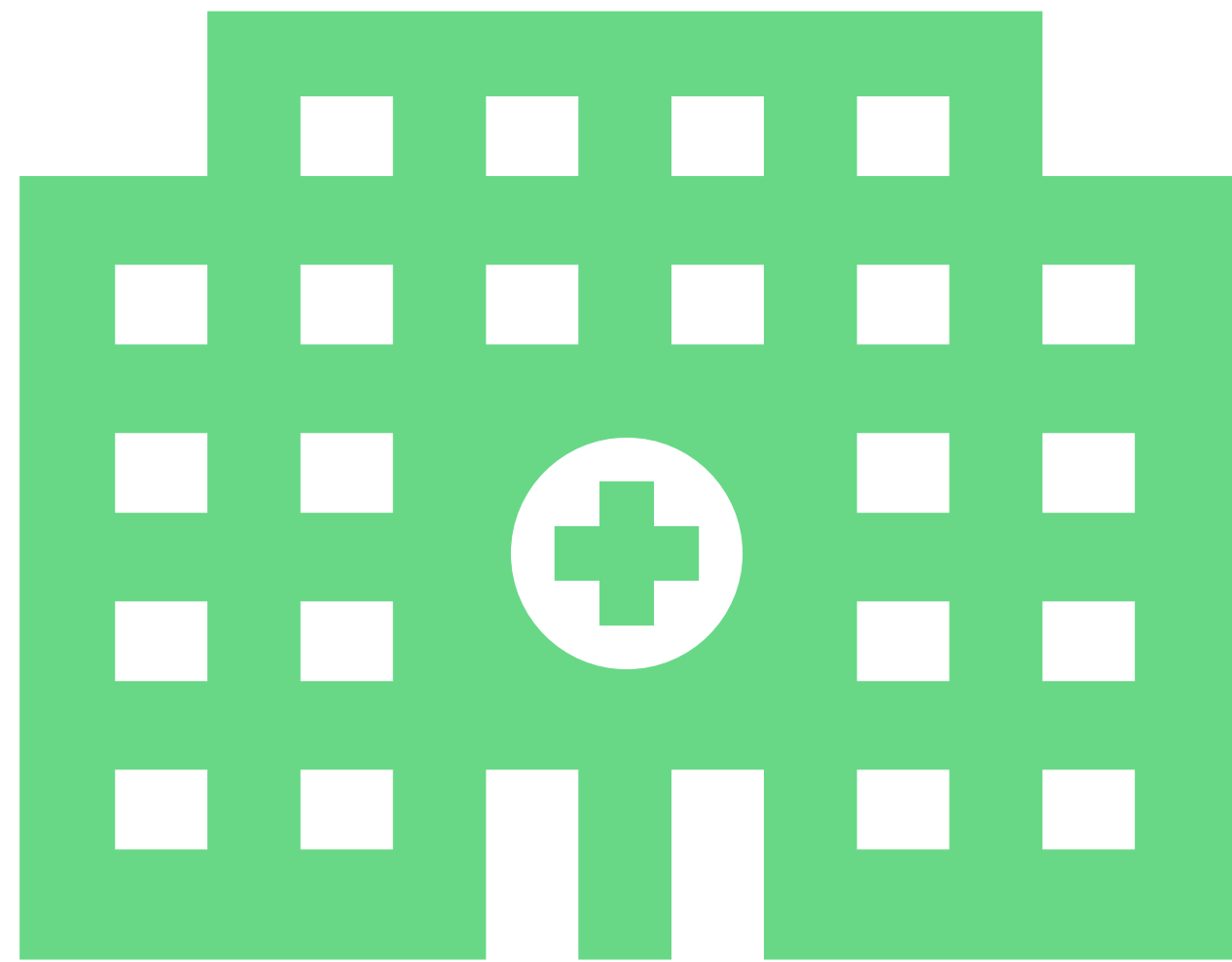
視点を変える。

高いところから「プラス思考」のように
相手を見るのはストレングスの視点ではない。



視点を変える。

**対等な立場に立つことで、最初から
ストレングスに焦点を当てることができる**

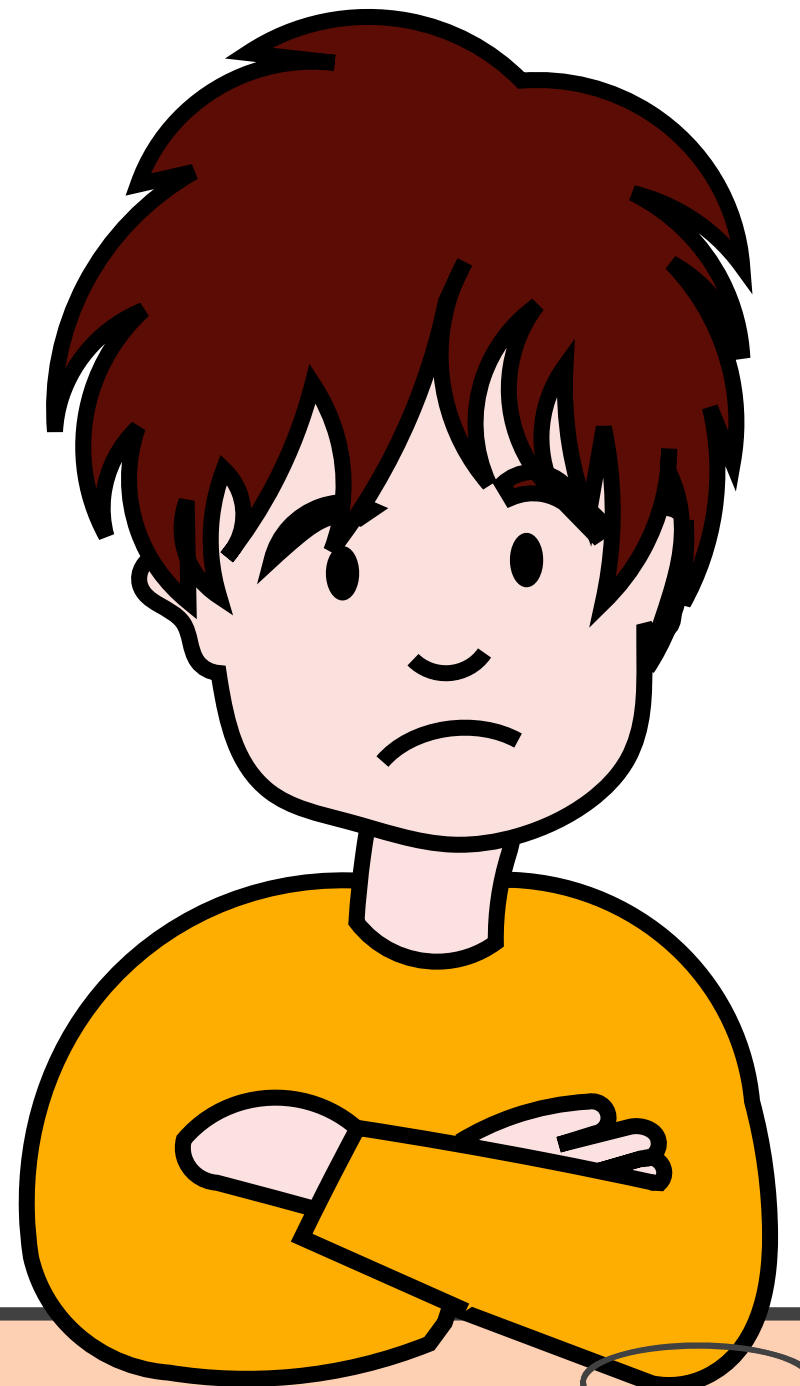


5.当事者主体を深く考える

自己決定と生活支援

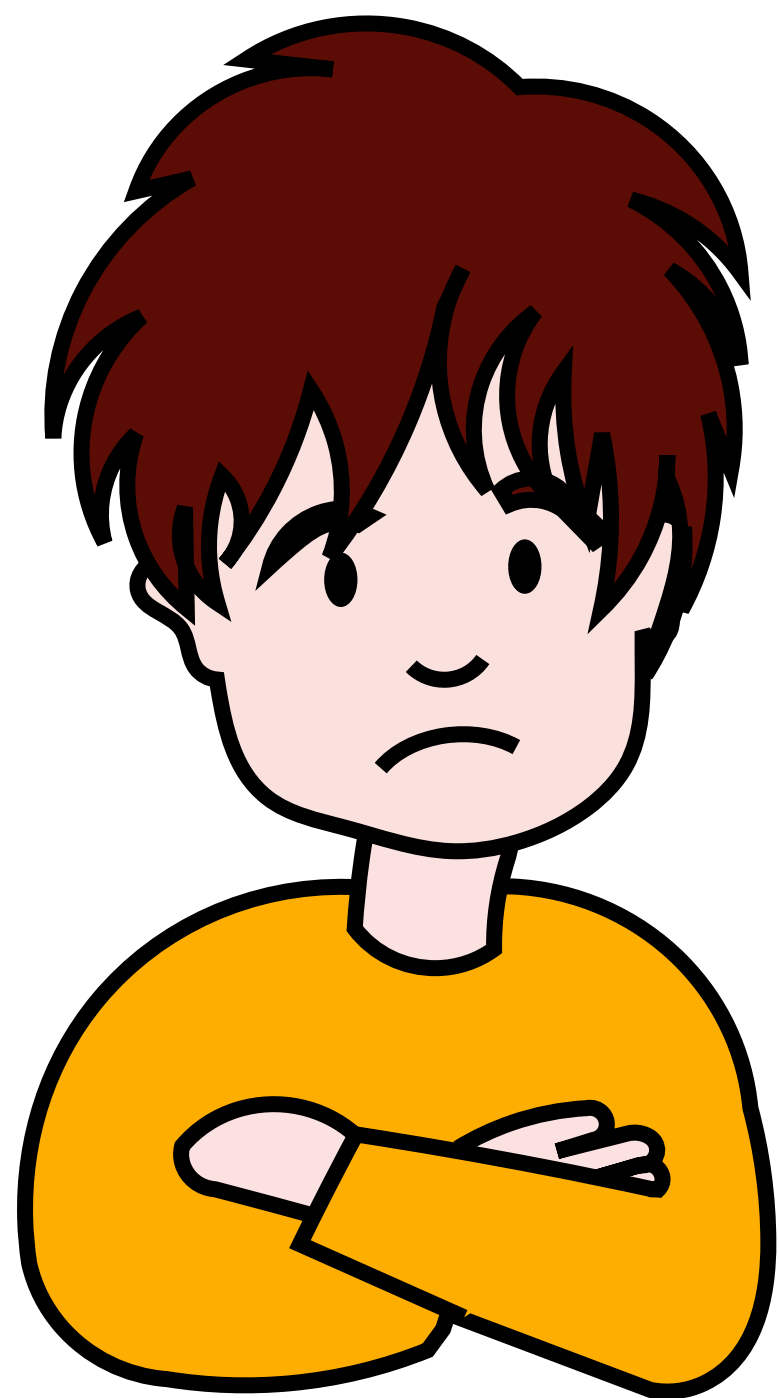
事例3：Cさん

薬を飲みたくない Cさん



Cさん（20代、男性）は、高校生の頃に統合失調症を発症して3回の入院を経験しています。現在は退院して両親と一緒に暮らしており、通院を続けながら週3日のアルバイトもしています。ある日、Cさんが相談にやってきました。

「主治医には内緒にしてほしいんだけど、2ヶ月前から薬飲んでないんだ。薬飲んでるとなんだかぼんやりして自分らしく生きられない気がして嫌なんだ。ただちょっとこの頃よく寝られないので困っている。どうしたらいいかな」



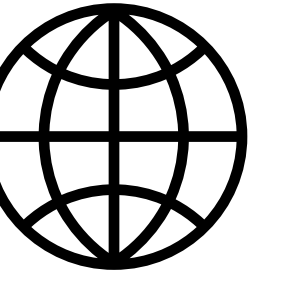
Cさんをどう支援する？

ONLINE

退院後は調子良く、アルバイトも続けているCさん。
しかし薬を飲むと自分らしく生きられない気がする
からと2ヶ月薬を飲んでいないそうです。最近、不眠
気味で困っています。

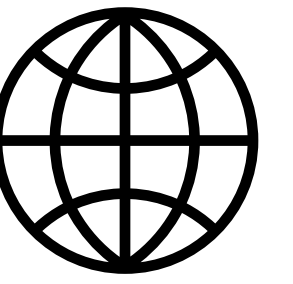


だいたい1羽20秒、あひる時計。制限時間は、あひる7羽（だいたい2分）



**Cさんは薬を飲むべきだろうか？
主治医の指示を守るべきだろうか？**





治療に関することは医師が決定する。

けれど、Cさんの選択も大切に考えてみる。

「薬は飲みたくないけど具合が悪くなるのも困る。薬を飲まずに、なるべく安定して生活するにはどうしたらいい？」

→本人が望まない治療を押し付けるのではなく、希望に沿った治療を行うのが本来の専門職の役目ではないか？



6. 「生活」に重点を置いた 生活支援へ

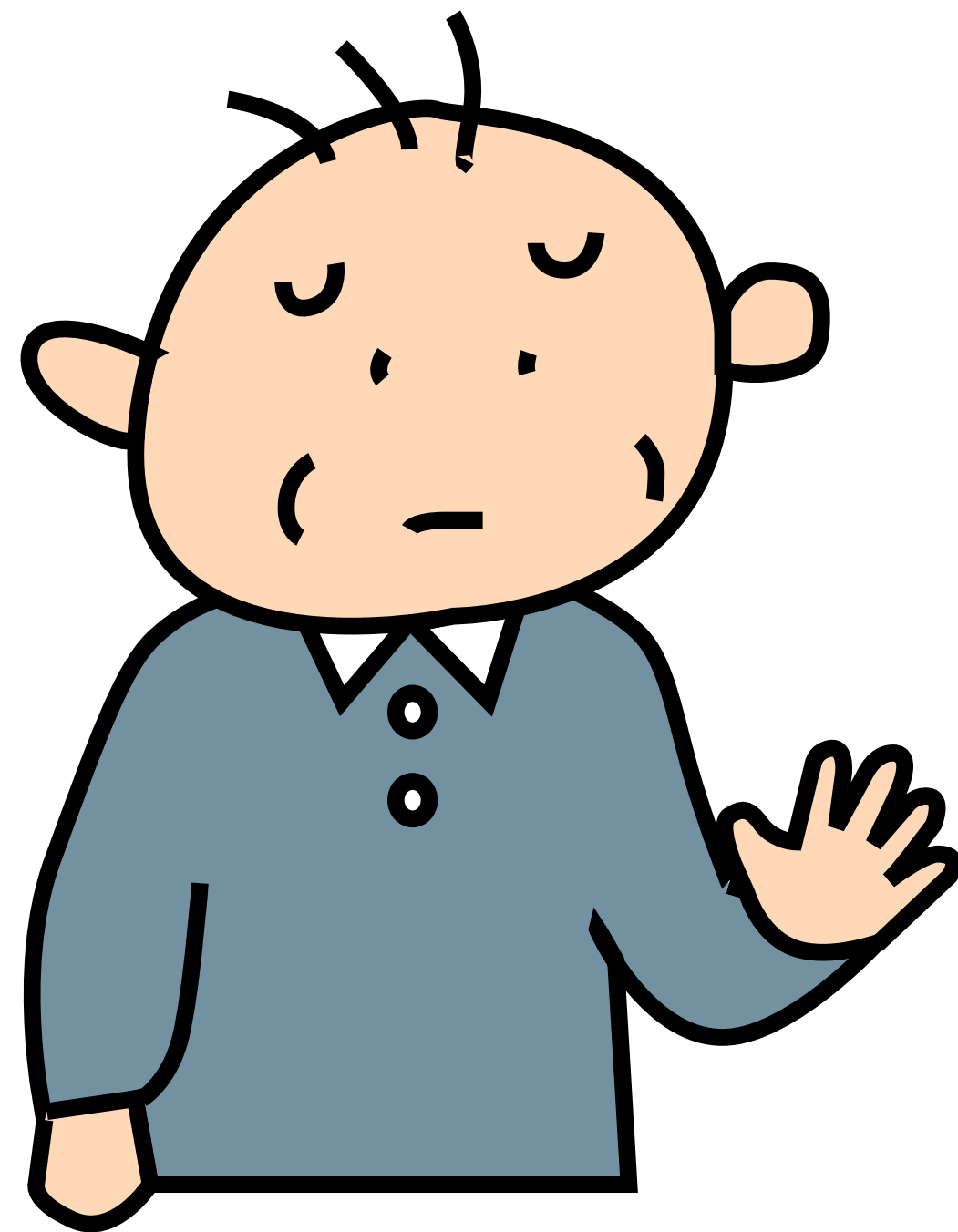
生活を共に作り出す支援を
考えてみよう

契約によるサービスの提供

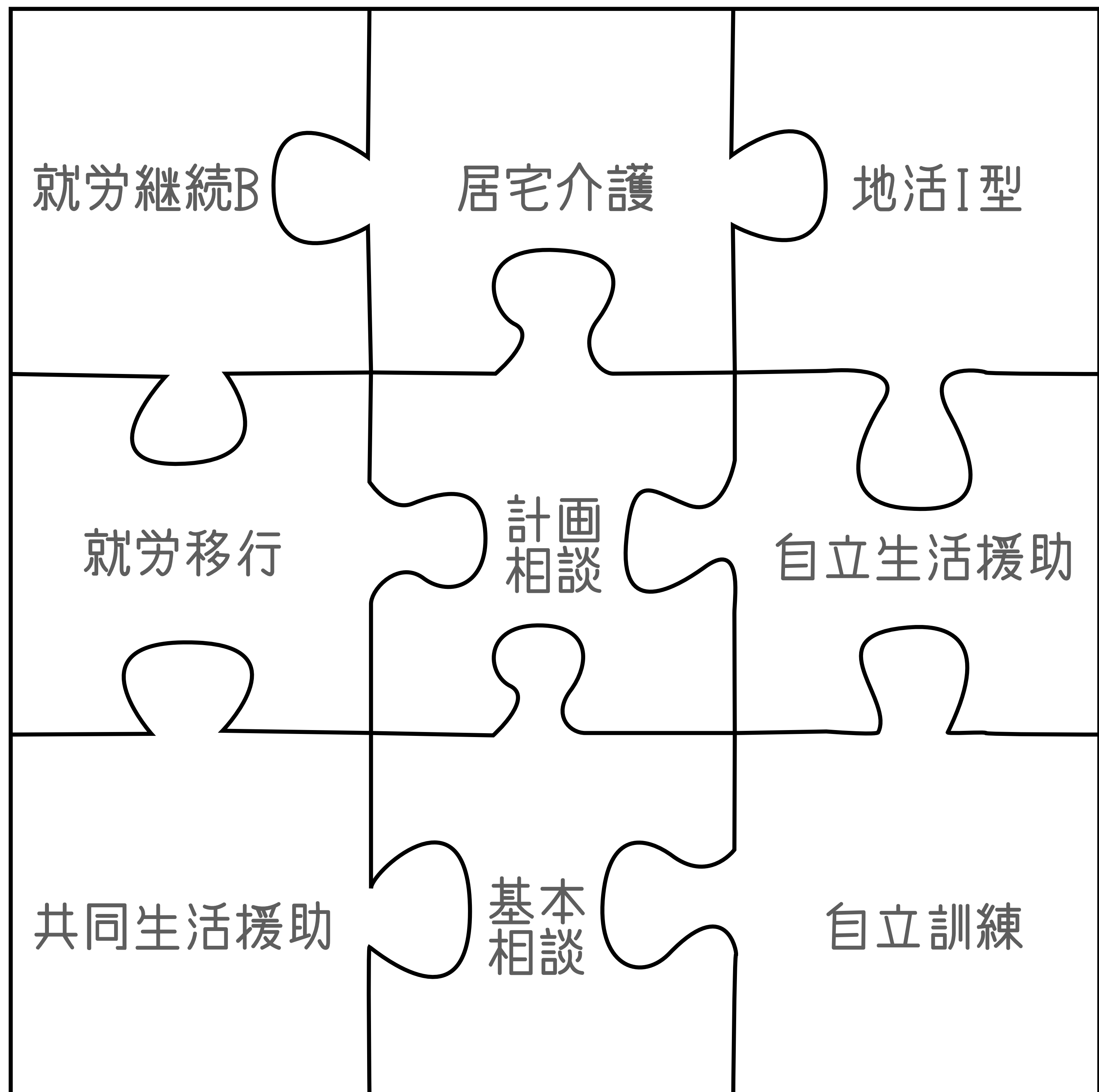


「契約に基づくサービス提供」は、
支援する側と受ける側を
対等な関係に近づけたけれど…
サービス以外の支援を見えづらくした

制度やサービスは 欠かせないけど...



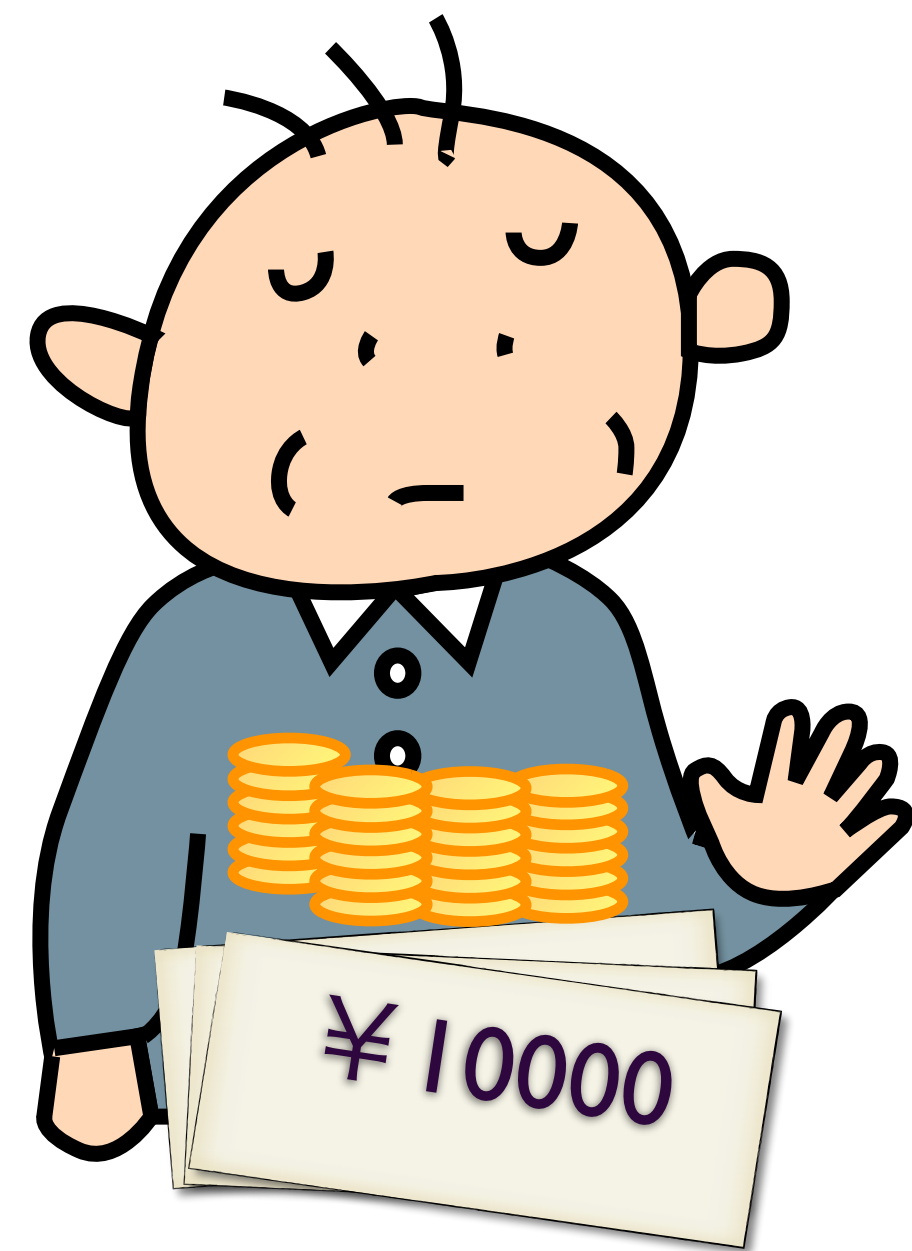
人の「生活」は それだけではない



「生活者」としての姿

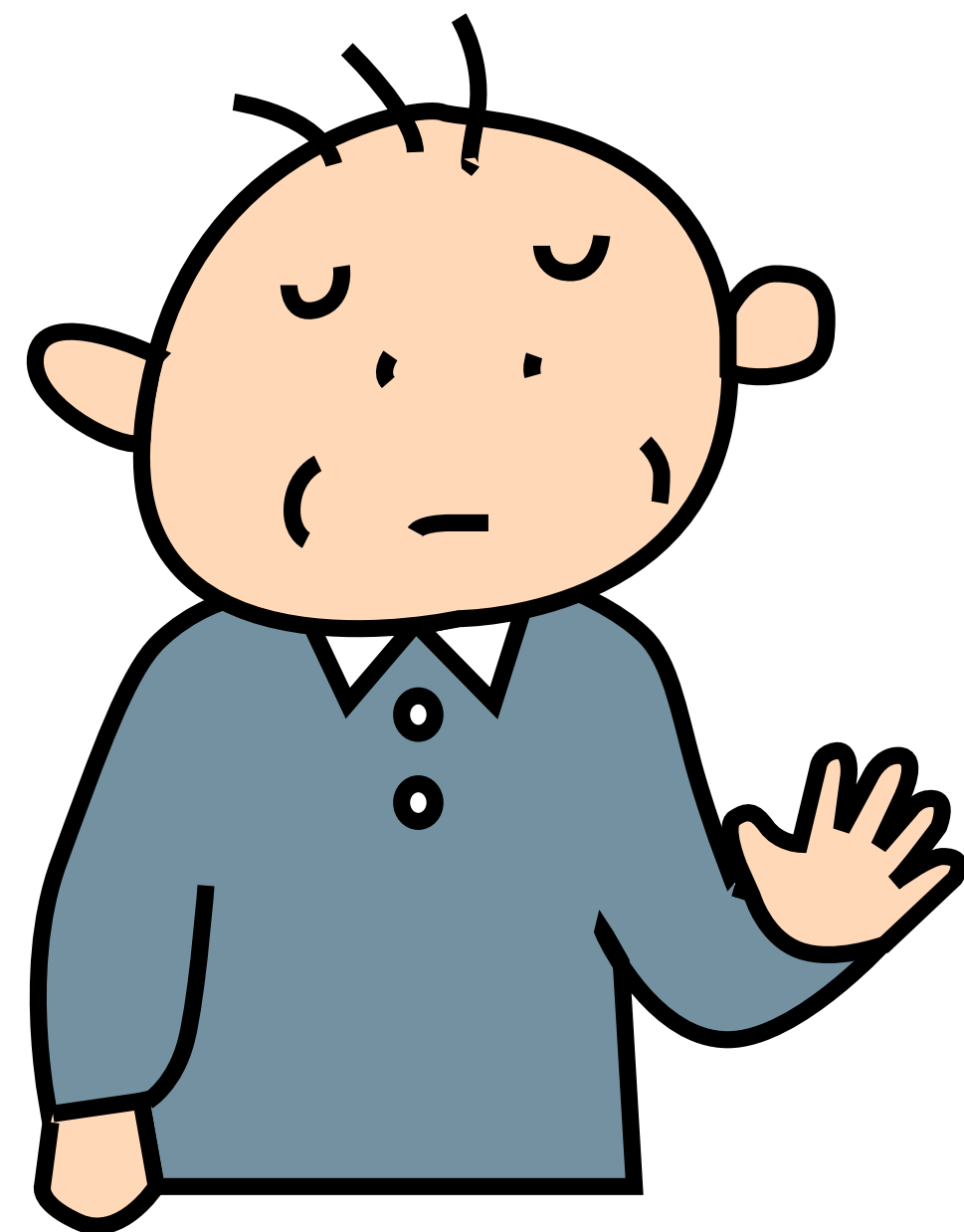
支援を受けているだけではない
同じ生活者として理解する





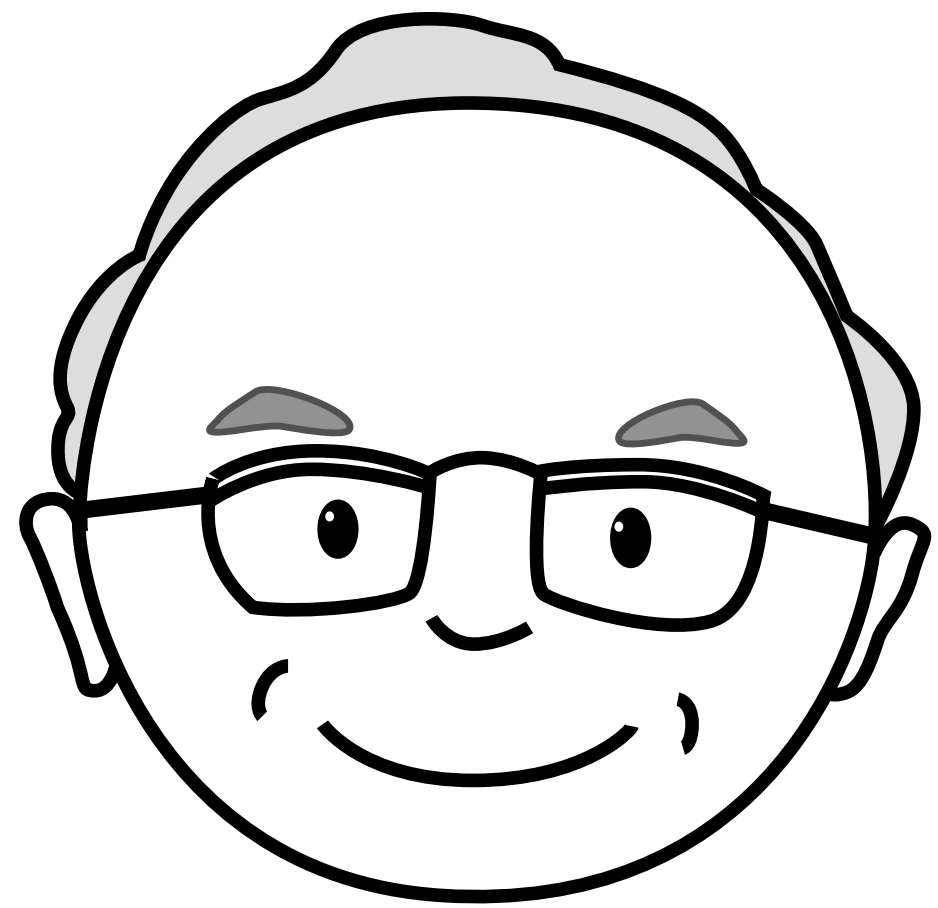
**一般のサービスは
お金がなければ
受けられない**





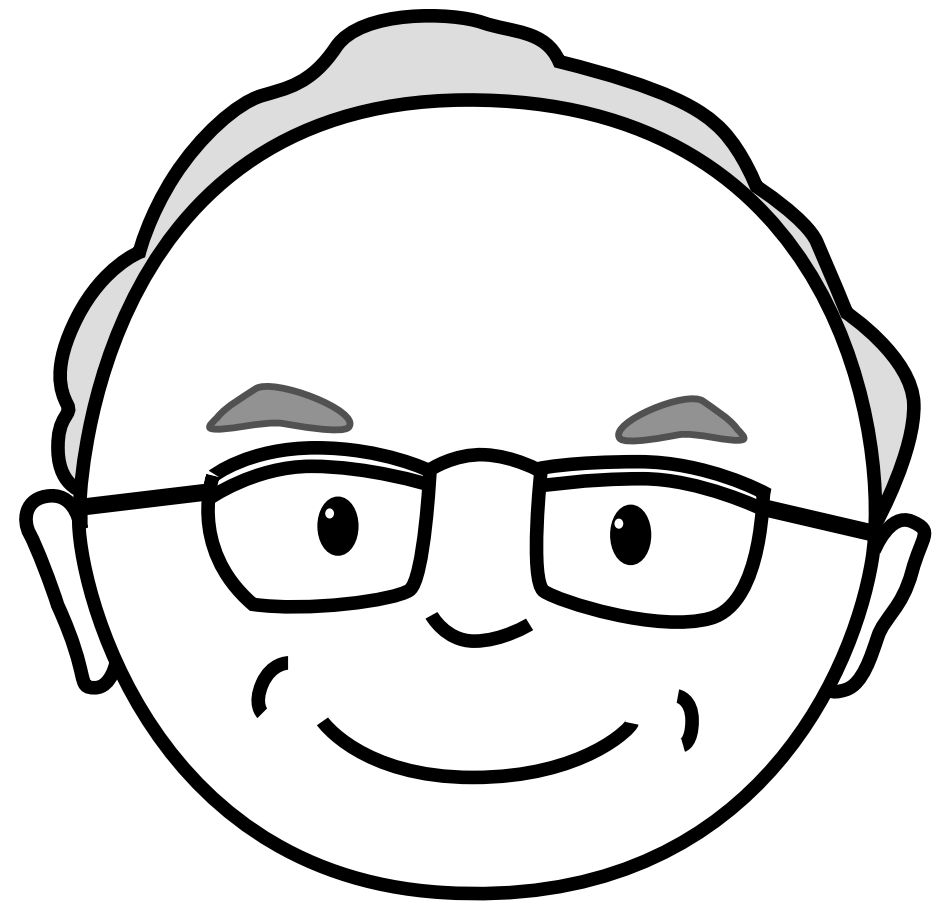
**福祉サービスは、
どうあるべきか？**





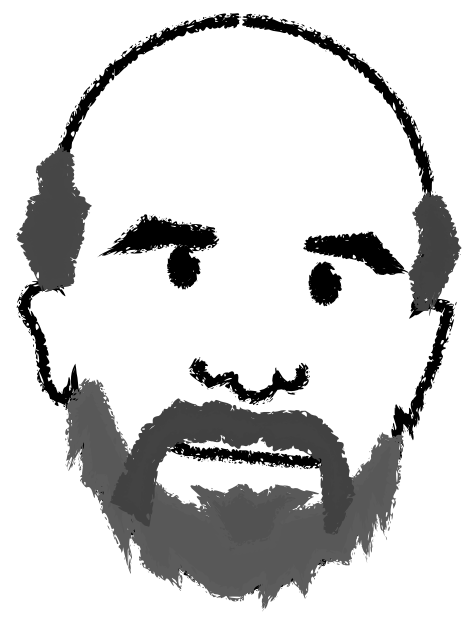
「生活支援」
61ページ

日常的な付き合いは一定の距離を
持ってつきあう。しかし一旦危機
の際には共同作戦に臨む。この繰
り返しが彼らとの関係を保つ上で
極めて重要なことなのである。



「生活支援」
64ページ

ゆっくりと、時をかけつつ、主体性、自発性を発揮する機会を相手に持ってもらいつつ、事を進めていくことが肝要なのである。そこに専門職としての最大の力量が求められてくるのである。



ストレングスモデルの原則

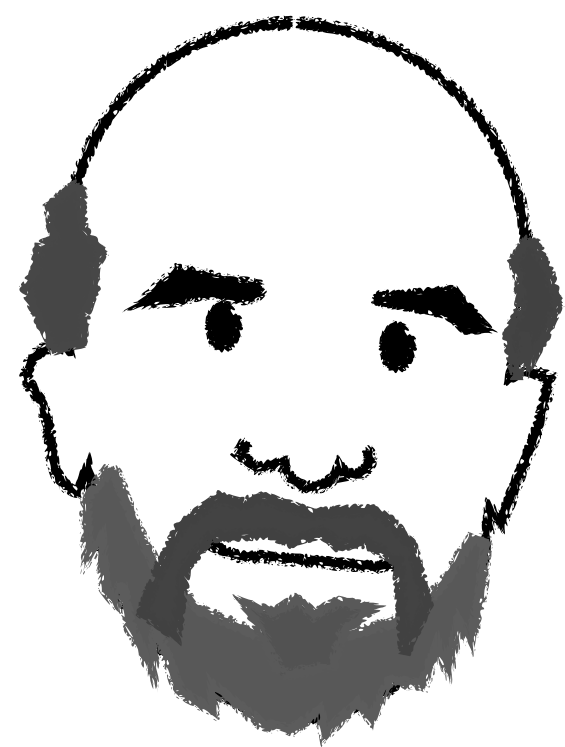
原則5：ワーカーとクライアント の関係性が根本であり本質である



「クライアントが地域の中で必要と
しているのは、旅行の同伴者であっ
て、旅行会社ではない」

Deitchman, 1980

*ストレングスモデルp81に掲載



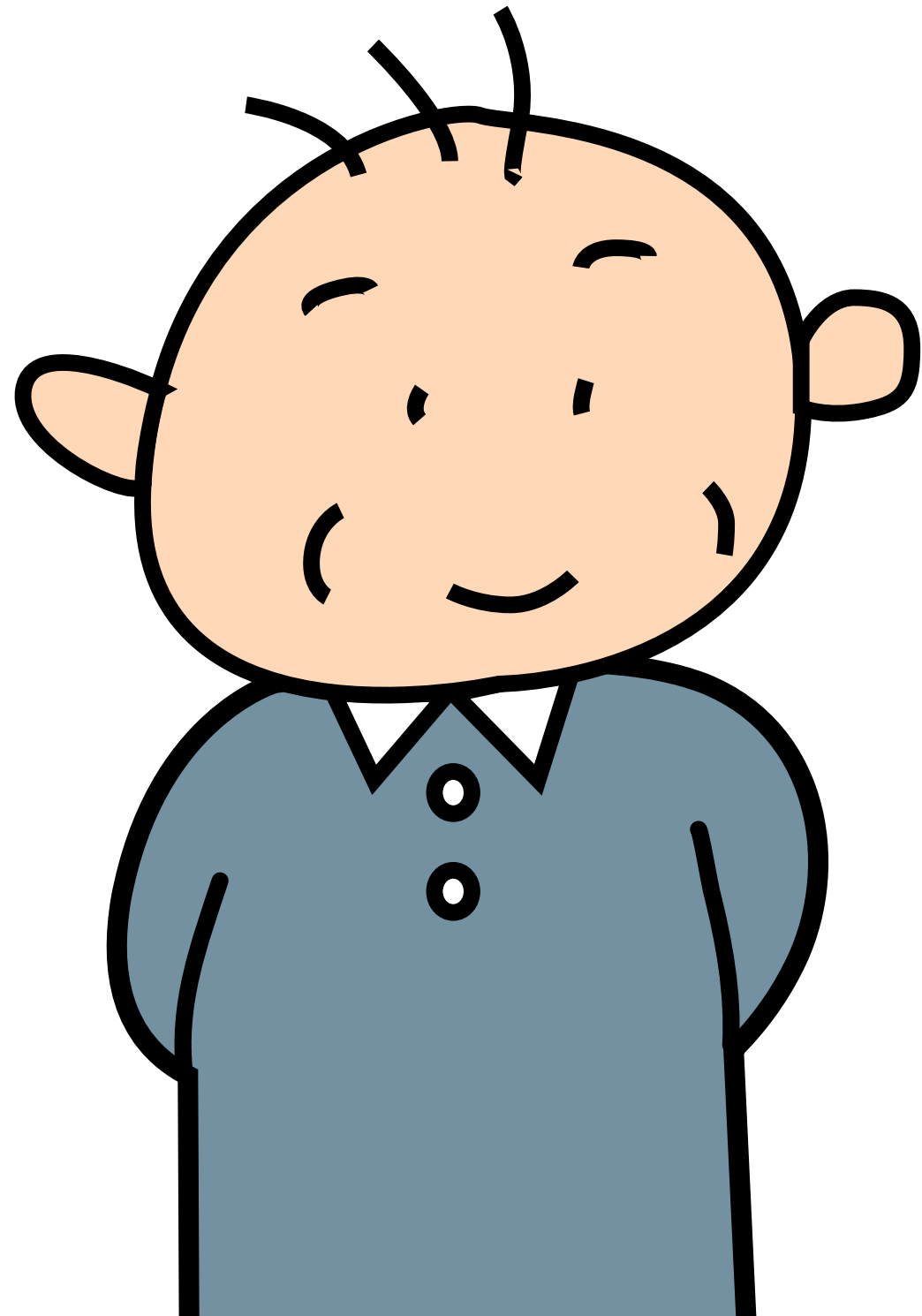
ストレングスモデルの生みの親の一人

C.ラップさんの言葉

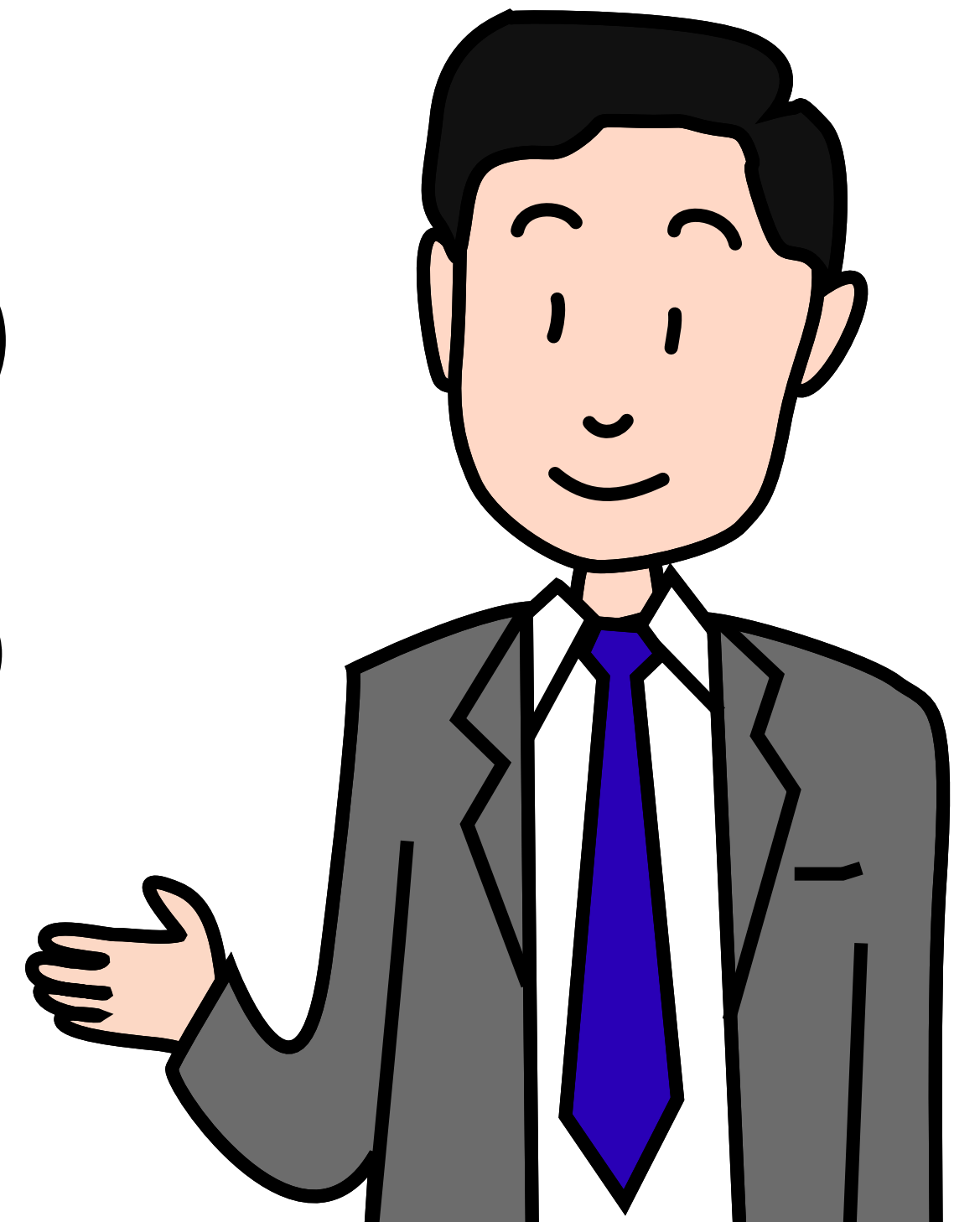
「ストレングスモデルは、患者を地域に出すだけではなく、患者が自分の人生で達成したいことを手助けする」

2003.8.27 精神障害者リハビリテーション学会の講演にて

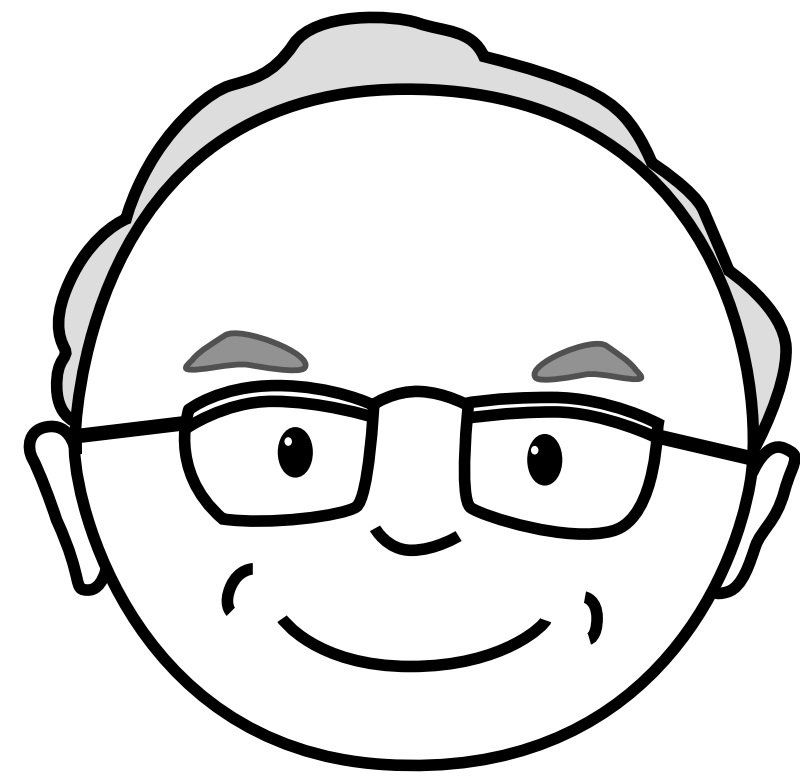
生活支援＝共に生活を創り出す支援



**生活支援は、互いの
関係の上に成り立つ
伴走型支援でもある**



**皆さんが普段の仕事の中で既に実践されている
ことも多いと思います。**



「生活」 支援を考える

— 支援ありきではない生活支援 —

以上で終了です。ありがとうございました。